

折紙探偵団新聞

会費も上がるぞ
36号
(前にも書いたような)

折紙研究ノート (6)

—雪華：多様なパターンと
幾何学パターンの普遍性— 鈴木邦雄

この連載では、巨大な系統群を形成する私の雪華作品について詳しく紹介することができませんでした。

雪華は、順光下でも十分に鑑賞に値すると思いますが、外観パターンだけでなく透かしパターンや隠れたパターンといった、従来（特に後者は）詳しく研究されてこなかったパターンは、今後の研究課題として重要であることをお話ししました。雪華をモチーフとする私の透かし折りは、以上の3つの異なる鑑賞の対象（側面）を一個の作品が内包している点でユニークだと思います。

もしも雪華が対称性を持っていなかったなら、私の取り組みも全然異なるものとなっていたでしょう。また、対称性を持つことで、作品と折りの操作の対応をかなり解析的につけることができたわけで、雪華は幾何折紙の対象にとっても相応しいと言えます。私がもっとも興味深いと思ったことの一つは、多様な雪華の制作過程で、幾何折紙におけるおそらくほとんど全ての基本操作をカバーし得たと思われることです。

雪華制作の過程で創出された幾何学的パターン（紋様）の中には、人

類の創り出した多様な造形の中に基本的には同一と看做し得るものが極めて多いのです。これは、人類が幾何学的パターンを有史以来普遍的に愛好してきたことを示しています。人類の歴史のさまざまな時代に、さまざまな民族あるいは国家の多種多様な造形の中に、共通する幾何学パターンがかなり普遍的に存在するのです（国際会議のプロシーディングスの論文に多くの文献を挙げておきましたのでご参照ください）。

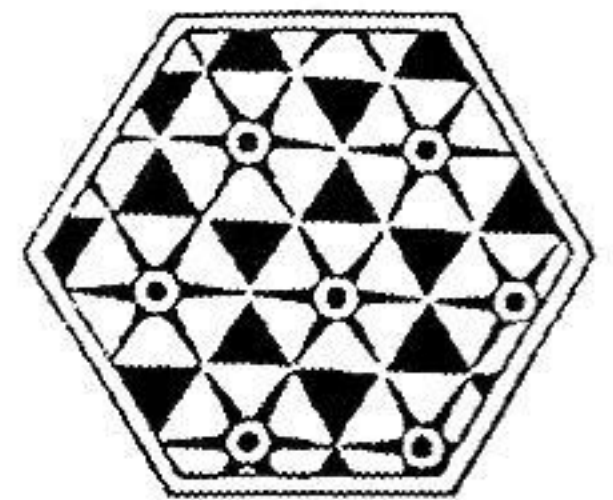
私の雪華作品に認められる多様な幾何学的パターンは、実際の雪華の結晶中にも（少なくとも類似のものが）多数出現します。さらに、自然界の多様な造形にも、正に多様な様式で出現しているということです。それらの間の類似性や共通性を解析することは興味深く、芳賀さんのオリガミクス精神とも触れ合うことになると思います。

ドイツの心理学者W・メッツガーの『視覚の法則』（岩波書店）に紹介されていた後期ローマの敷石模様の写真を想起しないわけにはいきません。ヨーロッパの古い都市には、まだあちこちにさまざまなモザイク

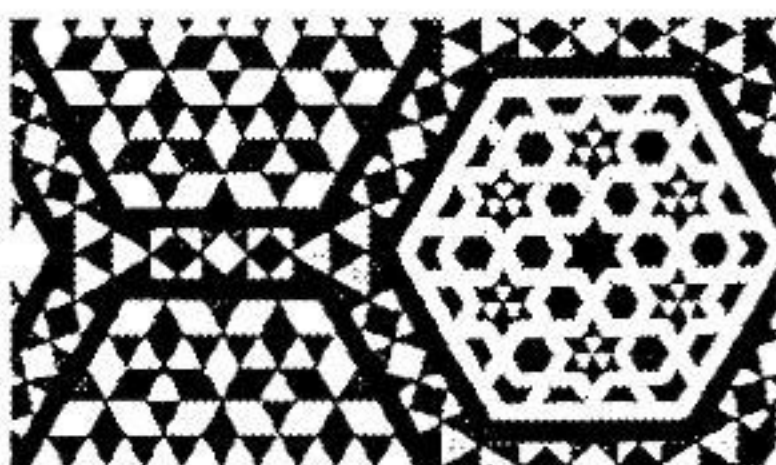
模様の敷石が残っています。私が実際に目にしたものの中では、ドイツ南部、スイスとの国境近くの古都フライブルグのそれがかっとも印象的でした。街の歩道や、時には車道でさえも、見事にデザインされた敷石で敷き詰められていました。

アメリカ生活文化史を研究しておられる小林恵氏の『折り紙で作るパッチワークキルトパターン』（1986.文化出版局）という本に紹介されているアメリカ各地の、特に前世紀中葉のキルトパタンにも、部分的には私の雪華の透かしパターンと共通するパターンが多数見られるのです。多様なデザインのキルトパターンを発見する手段として折紙を利用するという小林氏の発想は、私の透かしパターンへのこだわりと共通する部分があります。

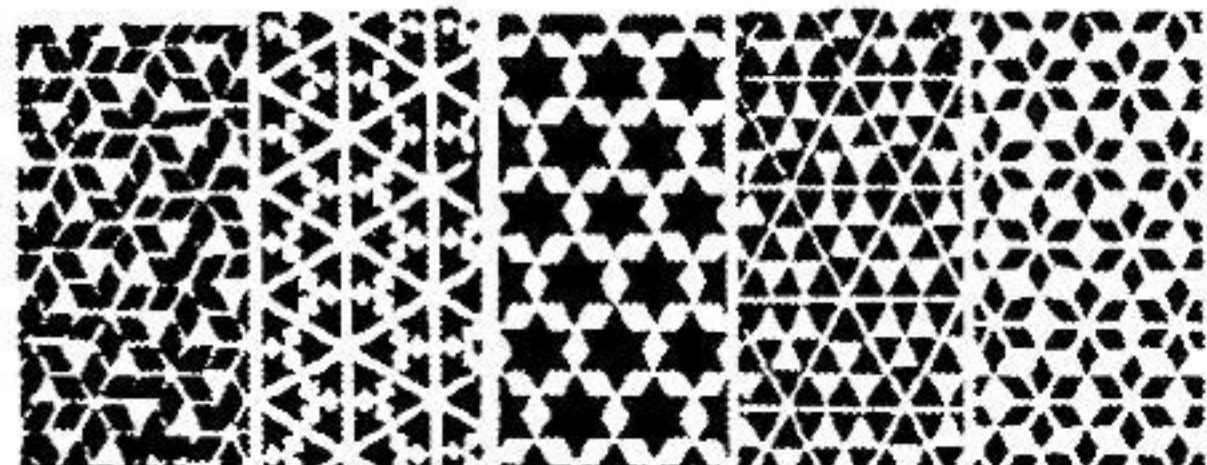
書き足りないことがたくさんありますが、この連載はひとまずこれでおしまいにします。（完）



13-14世紀のイスファハンの
テラコッタの装飾紋章の例



12世紀のアラベスクの例



13-14世紀のペルシャの装飾紋章より5種

折紙辞典

折紙辞典編纂室編

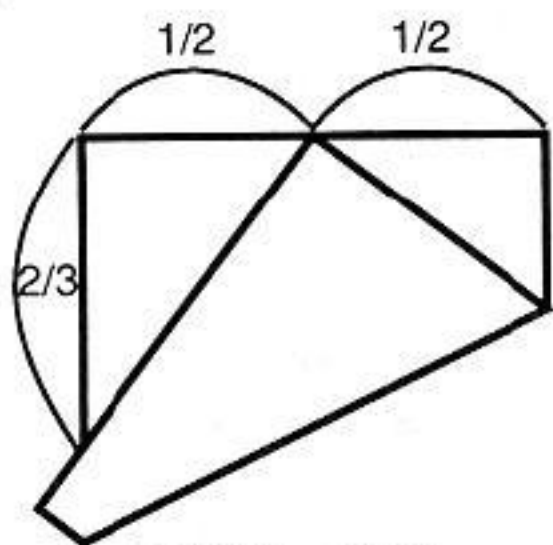
主幹

前川淳



は-ほ

はがていり【芳賀定理】《名》芳賀和夫氏による定理。二回の工程で正方形の一边を正確に三等分する方法が示される。同氏には、こうした数理的な面白さを狙った折り紙の試みが多数あり、それらをORIGAMICS（ORIGAMIという語に科学・学問を表す語尾ICSをつけた造語）と総称している。「秘傳千羽鶴折形」の「青海波」を幾何学的に解析すればオリガミックス・ブルーウェーブになる（だからどうしたと言わないでくれ）



芳賀第一定理

はくさん【白山】《地名》東京都文京区の中央部に位置する折り紙界の聖地。白山神社近くの「おりがみはうす」に、折り紙の上達に霊験あらたかなアメノヤマグチノマコト（天山口真命）が祀られている。この神様は、金儲け、蓄財、賭け事などにはまったく御利益がない。神主は高井弘明氏。

はさみ【鋏】《名》一度つくってしまふと元に戻らない特殊な折り目（切り込みともいう）をつくる道具。

はつねみねこ【初音みね子】《人名》TVチャンピオン折り紙大会準優勝者。会合などで和服を着ていることが多く、「クラブおりがみ」のママといった趣き。

はとり【羽鳥】《人名》(1) 羽鳥昌男。モーツァルトを聞きながらロバート・ラング氏の作品を折る、寿司屋の若旦那。(2) 羽鳥公士郎。ジョン・ケージを聞きながらジョン・モントロール氏の作品を折る、蕎麦屋の息子。

はんかいおり【半開折り】《名》笠原邦彦氏考案の、半開きの折り目を造形の主とする作品群。究極の「見立て折り紙」であり、目を半開きにして見るとよい。

ひでんせんばづるおりかた【秘傳千羽鶴折形】《固有名》現存する世界最古の遊技折り紙の本。1797年刊。京都の高木氏や当辞典編纂室垂涎のお宝だ。

ひらおり【平織り】《名》同じ折り目のパターンを二次元的に反復させた作品。折っただけで織ったわけではないのに、織ったようにしか見えないのでおったまげる。藤本修三氏の命名。

ふじたふみあき【Humiaki Huzita 藤田文章】《人名》正七角形の作図や曲線折りなど、折り紙の幾何学にのめりこんでいるイタリアの物理学者。

ふじもとしゅうぞう【藤本修三】《人名》多面体や平織りなどの幾何的な作品を休むことなく生み続ける作家。本当に休むことがないので氏の家は作品に埋もれてしまい、別宅を新築した。

ふしみこうじ【伏見康治】《人名》著作「折り紙の幾何学」で折り紙界に大きな石を投じた物理学者。白い顎髭は折り紙界の仙人といった風貌。

ふしみみつえ【伏見満枝】《人名》伏見康治氏の折り紙における共同研究者。

ふせつせいほうけいいちまいおり【不切正方形一枚折り】《名》一辺30センチを越える正方形の紙から、大きさ数センチの作品を折り出す技法。

ふせともこ【布施知子】《人名》信濃ノ山ノ林ノ奥ノ、大キク傾ヒタ家ニ居テ、一日ニ自家製果実酒数杯ト、茸ト沢山ノ山菜ヲ食べ、いたりあデ会合ガアレバ、行ッテ美術館巡リヨシ、長崎ニ講習会アレバ、行ッテ御馳走ヲ食べマクル。村随一ノ高額納税者ト呼バレ、誉メラレルト喜

ビ、カラカフト本気ニナル。サウイフ者トワタシハ知り合ヒ。

ぶりる【Brill】《人名》Devid Brill イギリスを代表する作家。

British Origami Society (BOS)の代表。すなわち、ボスのボス。

ぶんきょうくみんせんたー【文京区民センター】《固有名》1994年に折紙探偵団の一部首都機能が白山より移転した地。都営三田線春日駅下車0分、ガス水道完備。毎月末土曜善男善女が集まっては、高尚にして文化的な会合（折紙探偵団例会）が催される。

ぶんし【分子】《名》折り紙の展開図において、まとまった構造を持つ部分。

様々なタイプがあるが、「第一風型分子団」に、命名（目黒俊幸）といい、応用性の高さといい、一等賞をあげたい。

へんこう【偏向】《名》当辞典の編集方針。例えば、人名項目について「なんであのひとが出てこないんだ」と思うそこのあなた、単にうっかり忘れたとか、編纂室主幹のM氏に面識がないというだけのことである。そもそも、この辞典に掲載されることは特に名誉なことではない。

・・・と書いた後になんですが、次の項目は、

ほうじょうたかし【北條高史】《人名》「天馬に乗った骸骨の剣士が地獄門でリボンベルを鳴らしながらマグロの骨を解剖する」といった作品で知られる若き作家。

ぼくすぷりーと【Box pleat】《名》蛇腹折り。直訳すれば「箱ひだ折り」。飛騨の伝統工芸か？

ほんいでんなおみ【本位田那穂美】《人名》折紙探偵団難読姓名部門第一位。初音みね子さん、加藤美子さんと三人で「素敵な奥様三人組」を形成する。「素敵な」という形容詞は「季刊・をる」にあったもので、当編纂室としては、・・・特に異論はありませんです、はい。

ほんだいさお【本多功】《人名》近代折り紙草創期に活躍した折り紙作家。特に海外への折り紙普及に功績が大きい。折り紙界でHONDAと言えは本多功、KAWASAKIと言えは川崎敏和、SUZUKIと言えは鈴木邦雄、TOYOTAと言えは川畑文昭である。

〔紙風船のルーツを探る〕

前々回で、紙風船がイギリスには無かったことを書いた。構造や機能が古来の蹴鞠のマリに似ているので日本独特のものかと思うが、いつ頃から存在したものなのだろうか。

漱石の『坊ちゃん』に「花火の中から風船が出た。帝国万歳と書いてある。天主の松の上をふわふわ飛んで営所のなかへ落ちた。」とある。花火から紙風船やゴム風船が出たとは思えないし、状況からは小さな落下傘と思われるが、風船が落下傘を指すということは大きな辞典にも出ていない。

ところが明治26年11月発行の少年雑誌『小国民』（第5年・22号）に「風船うり」の絵が出ていた。説明文に「上野公園の上り口に、風船を売る商人、今は常に三四人づつあり。スペンサーの風船乗り以後のことなり。」と書いてある。英国人スペンサーが来日して軽気球に乗って話題になったのは明治23年11月のこと、漱石は明治28年の経験をもとに明治39年に『坊ちゃん』を書いた。当時の国語辞典『言海』（明治24年）の「ふうせん」の項は「人ノ乗リテ空中ヲ飛行スベキ具、布帛ノ大ナル球ニ、水素瓦斯ナドヲ満タセ、コレニ乗リテ揚ガル。軽気球。」

となっているが、スペンサーの一件後は玩具の「風船」が流行ったのだろう。水素ガスなどの入って



〔七〕風船うり。

いない落下傘型のものも、風船と呼んだわけだ。これなら花火の中から飛び出せる。また、そのころからだろうが、ガスを入れた玩具のゴム風船は「風船玉」と呼ばれた。

〔空気だま〕

偶然のようだが、「風船うり」の出ている『小国民』の次の号（明治26年12月）に、「空気だま」の記事が載っていて、これこそは「紙風船」そのものと言ってもよいようなものであった。「紅白の紙にて、

おりがみ庵

ひとりごと
岡村昌夫
第23回

直径四寸ほどの珠を張り、其の口の内部に舌あり。之に息を吹きこみ、手にて上に拍ち、ゴムまりの如く弄ぶこと

、二三年來府下児童の間に流行す。」口の内部に弁が付けたといふのが、いかにも新發明直後の感じである。弁のいらぬことに気付くまであまり時間はかからなかったと思うのである。また「空気だま」が「風船」と呼ばれるようになるまでの時間もおそらく。



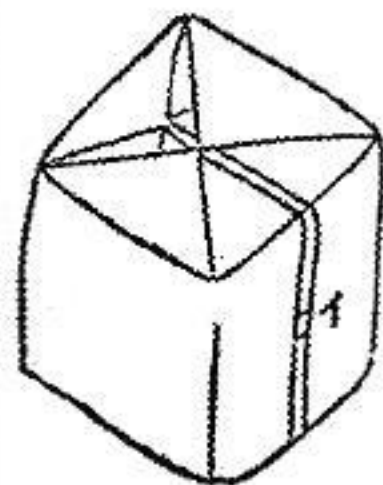
〔九〕空気だま。

〔折り紙の風船〕

いわゆる「風船の基本形」が現れるのは比較的新しいことであるが、それでも折り紙の「風船」は江戸末期には在ったと思われる。直接的な資料ではないが、文化11年ごろという確証のある某氏蔵の紙の煙草入れは、完全な「風船」の片面を使っ

ているので、その存在が推定されるわけである。「風船」と呼ばれたはずはないが。

明治になってからの幼稚園や小学校の教材としての折り紙には、鶴などを除くと二艘船系のものを中心だったせいか「風船」はまず出て来ない。そしてこれもまた『小国民』なのだが、その第6年5号（明治27年2月）に「鞠（まり）」という名で出ている図が古い。そして、ほどなく「風船」の見立てが生じたと思われる。明治34年刊『日本児童遊戯集』（太田才次郎編）の「折物」の項に「風船」の名が見え、明治43年刊『図画応用 紙細工』（木内菊次郎著）には折り図付きで「風船」が載っている。



折紙法。其三十、鞠。

〔現代ふうな見立て替え〕

折り紙が長く伝えられている間には、事物の変遷に伴って、より現代的に見立ての交替が行われることがよくあって、それは折り紙史的に面白い問題を含んでいると思う。例えば、「郵便屋さん」という折り紙は郵便制度が出来た以後の創作だろうというようなことがよく言われるがそう短絡的に考えてはいけぬことを教えてくれる。「郵便配達人」となど明治時代に呼ばれた折り紙は、そのころの本で他に「農夫」とされている例がよくあるのだ。郵便配達人を作ろうとして新作されたものを農夫とも呼んだと考えるのは不自然であろう。「風船」の例は、その事物の誕生と折り紙の見立ての成立との関係が資料的にたどれる珍しい例だろうと思う。

また、「見立て替え」が事物の変遷に関係なく行われる場合もあることは、現代でもしばしば経験するところである。非凡な見立てによって全く別の作品に再生されてしまうことが有り得る事実からは「折り紙の創作とは何か」も考えさせられて興味は尽きない。

おたくの部屋

ガメラ 笹出晋司

Gamera by Shinji Sasade

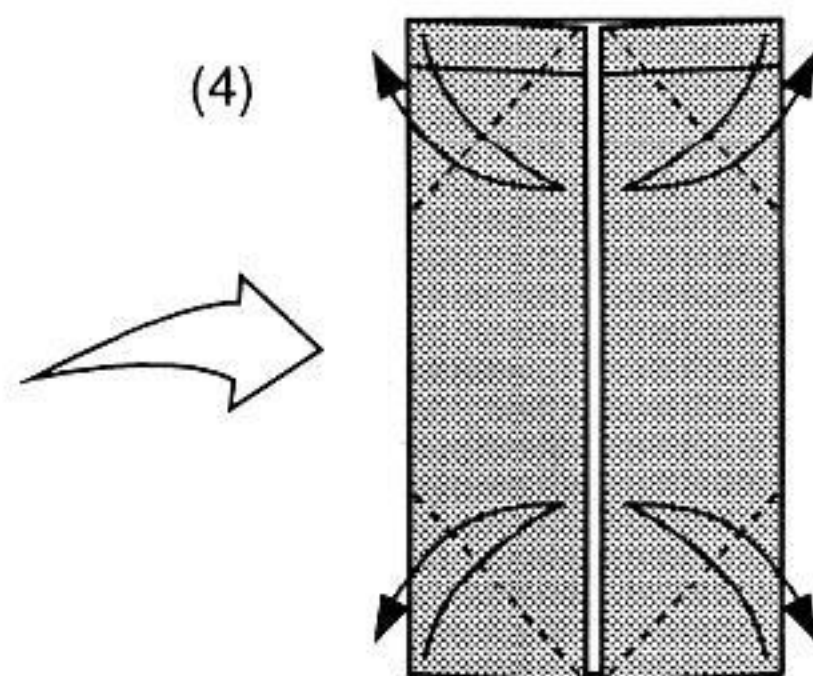
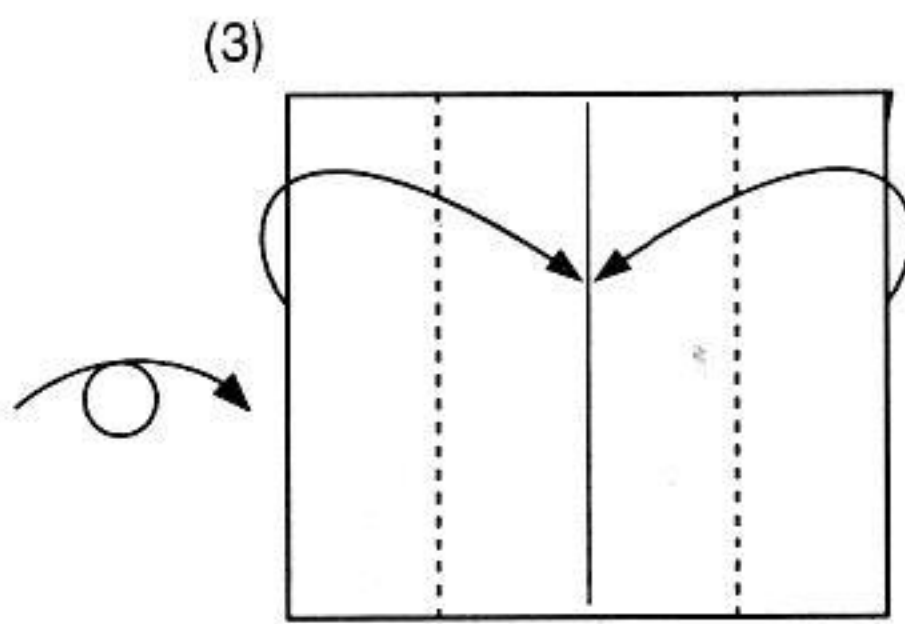
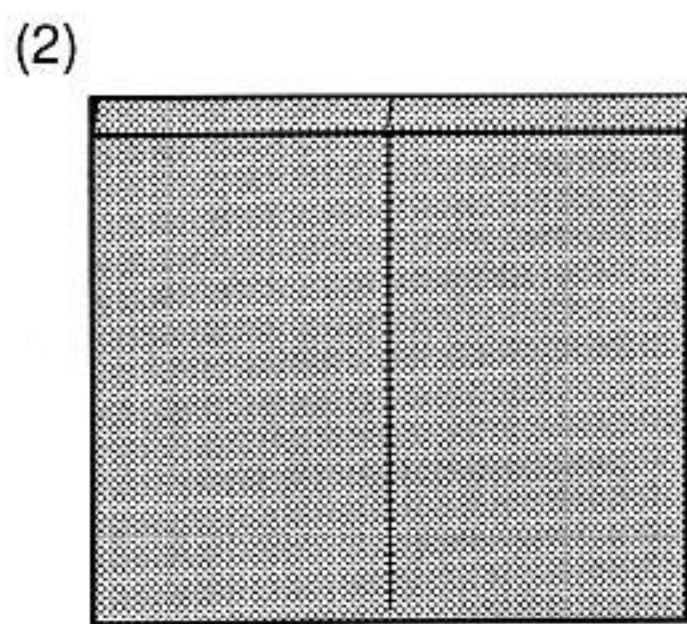
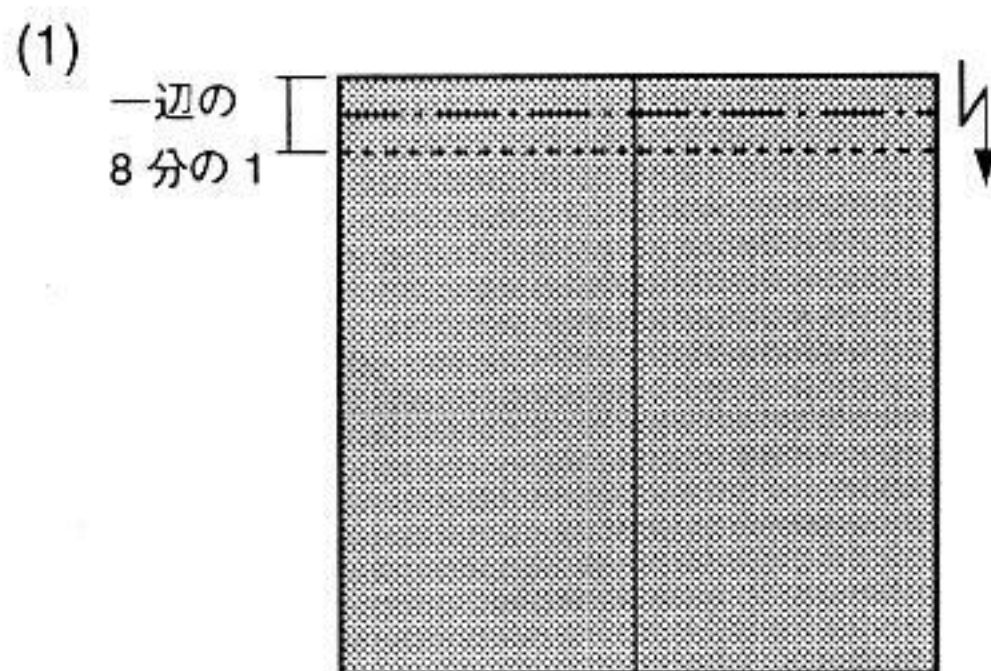
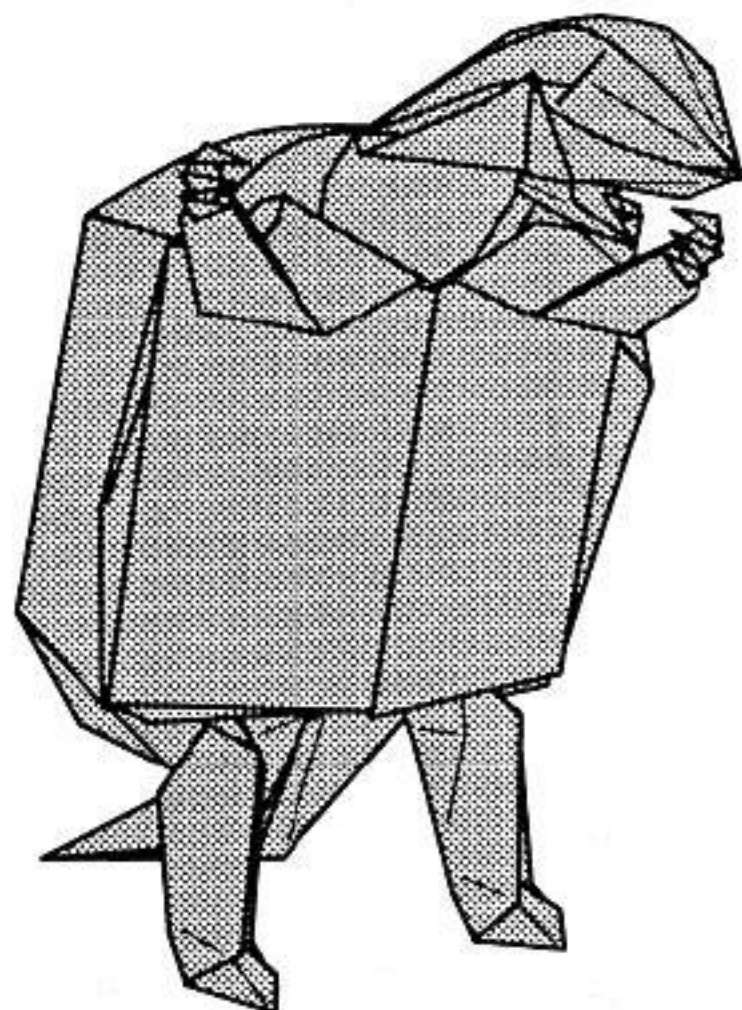
トレース 木村良寿
Trace Yoshihisa Kimura

造型士口上

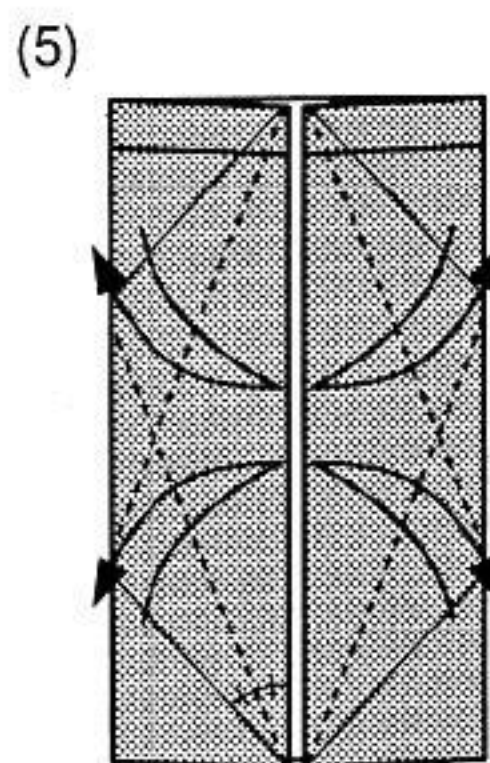
映画で復活したガメラに刺激されて作ったものです。

不切正方形一枚要糊付作品でありまして、腹の部分をしっかり糊付けしてカッキリ形がきまってから手足や頭を整えると良いと思います。図中の数値的な比率は目安ですので、あまり神経質にならなくても意外と大丈夫です。

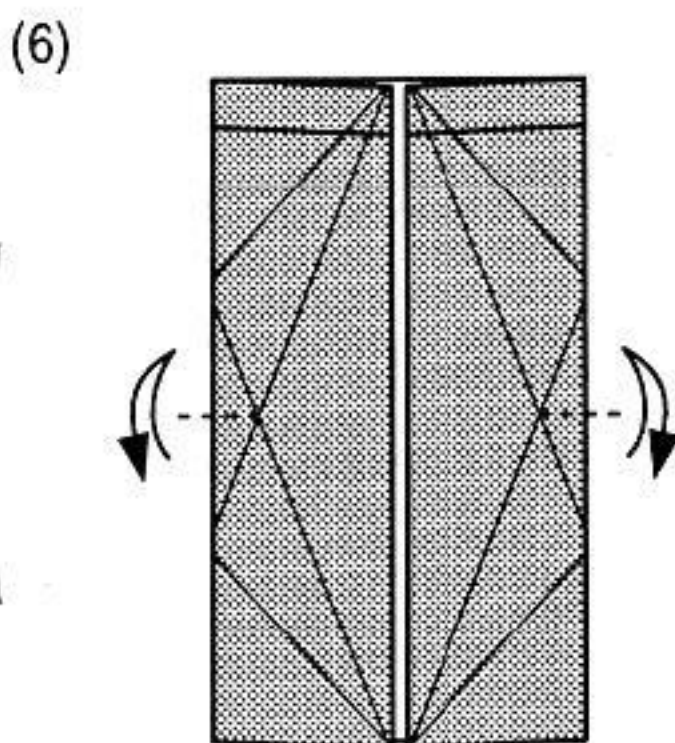
尾っぽを腹の中に引っ込めて後ろ足を炎に変えて飛行形態にしたりできますので、好きな方はいろいろ楽しんで下さい。



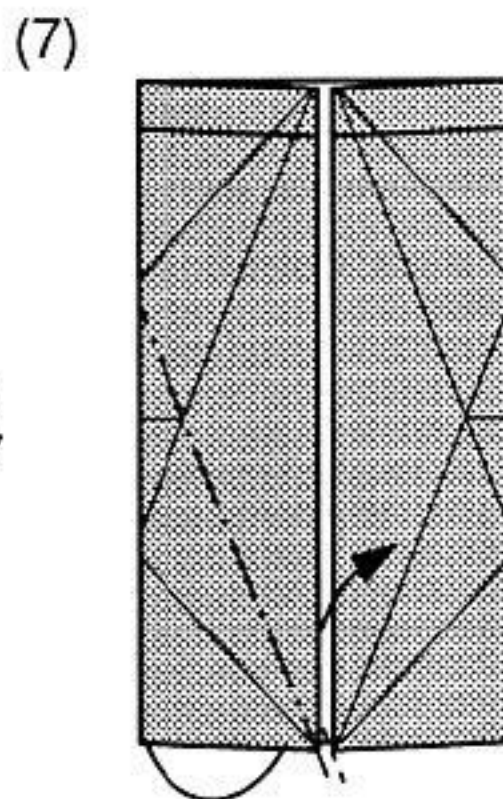
おりすじをつける



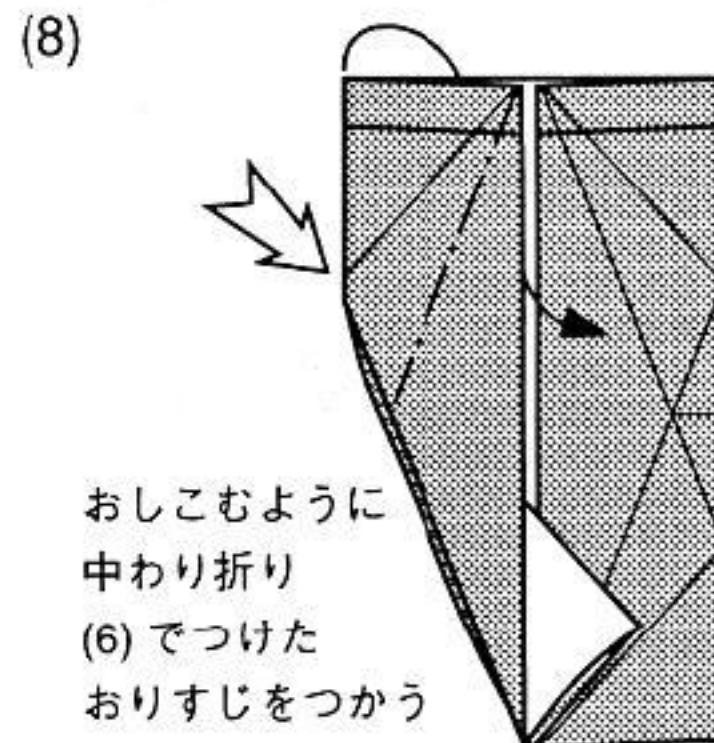
おりすじをつける



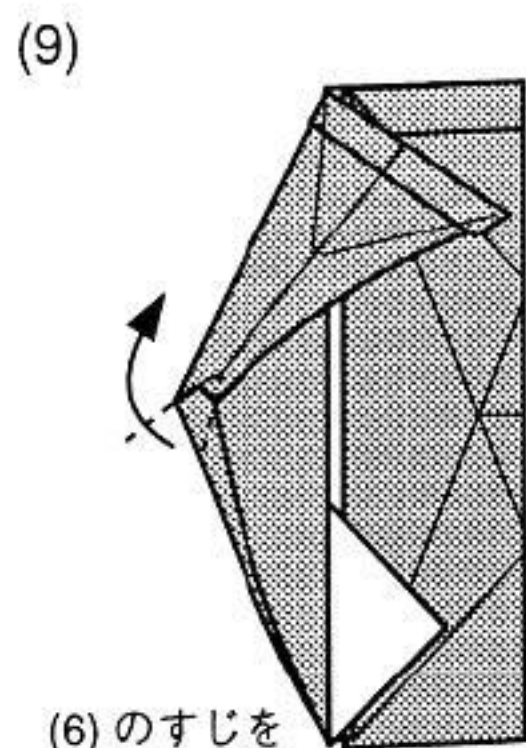
おりすじをつける



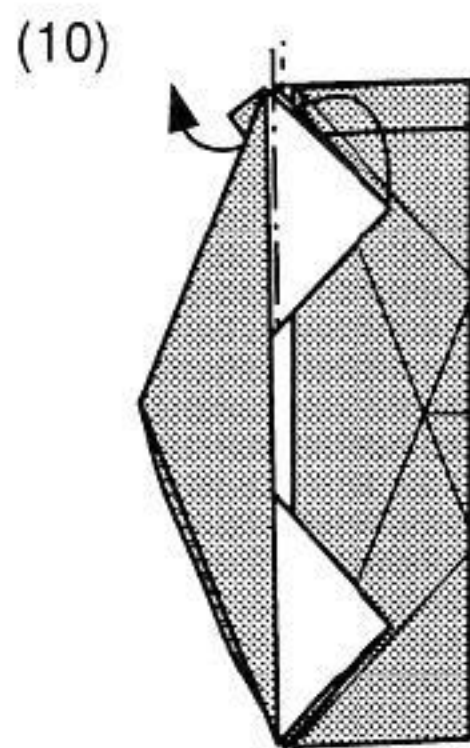
中わり折り



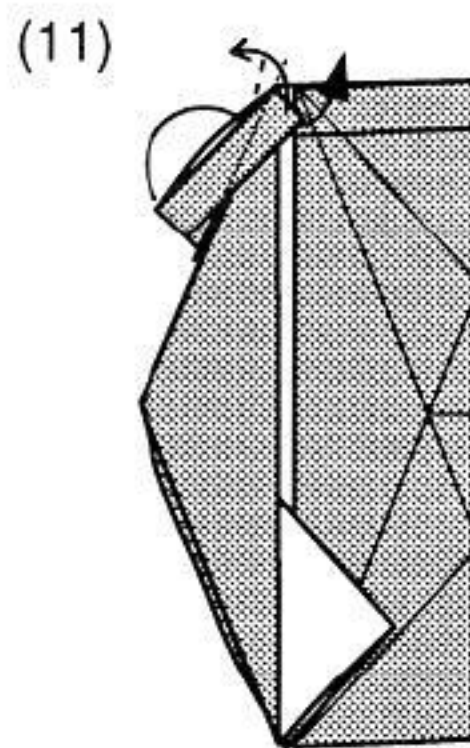
おしこむように
中わり折り
(6) でつけた
おりすじをつかう



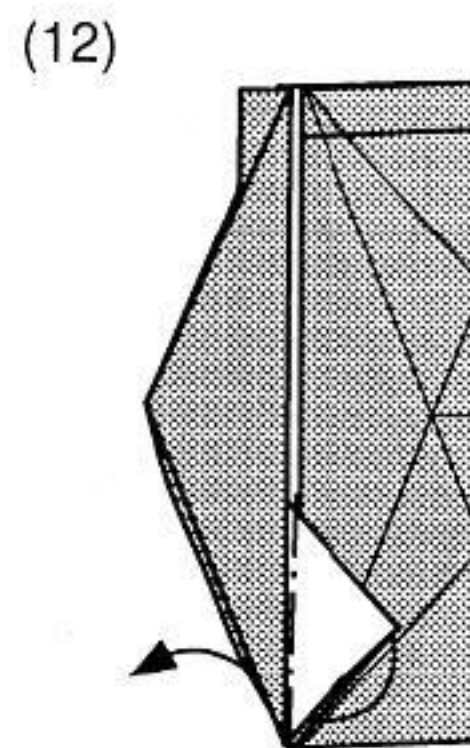
(6) のすじを
上にあげて
たたむ



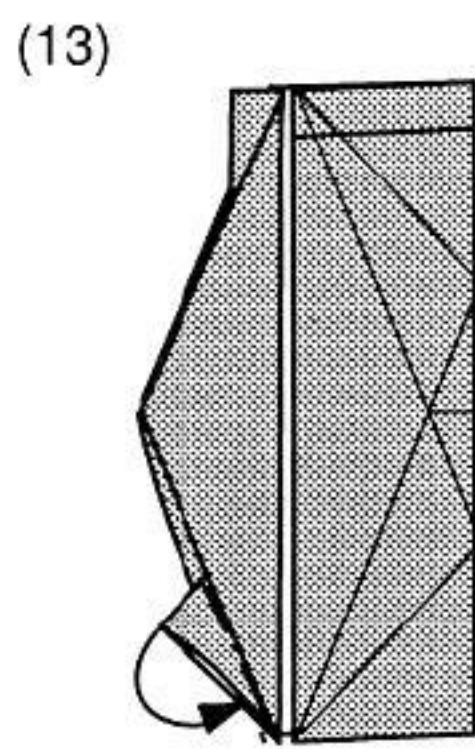
中わりおり



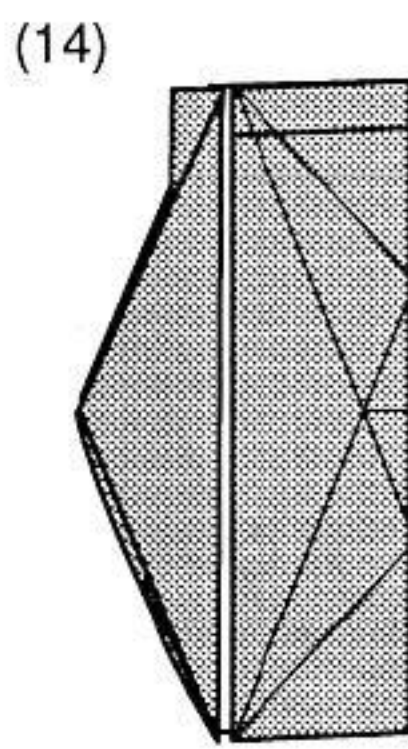
中わりおり
先端に注意



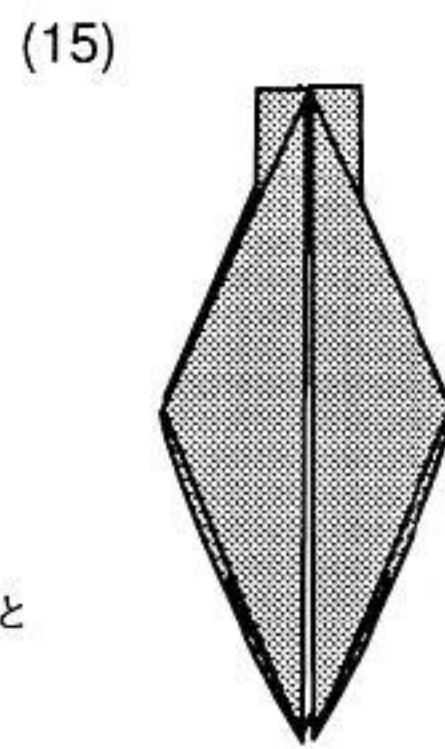
中わりおり



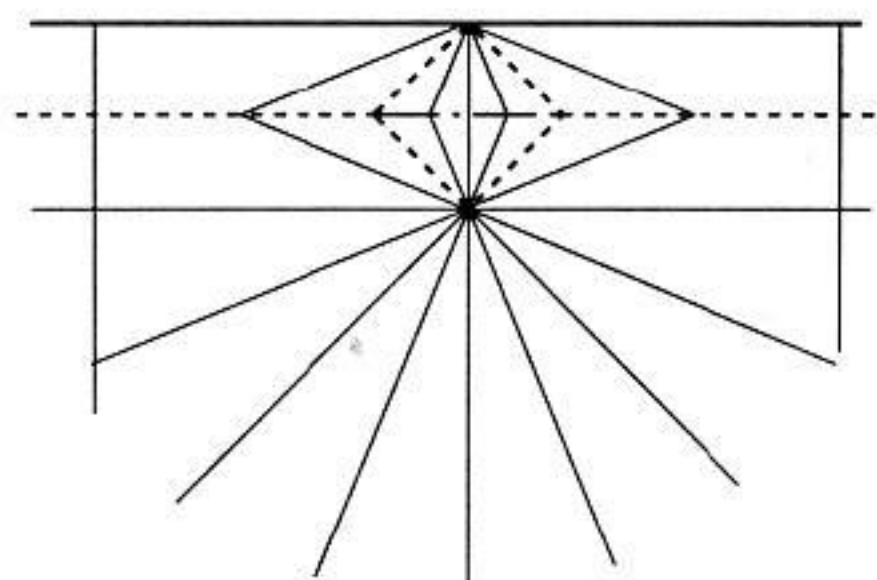
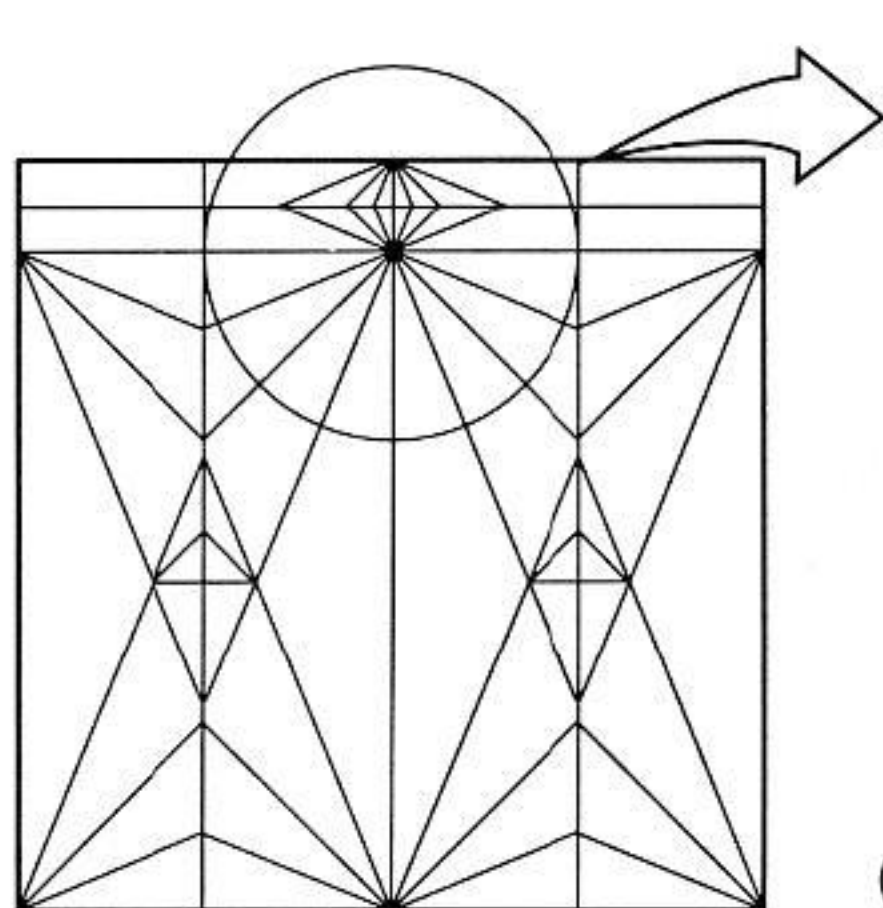
中わりおり



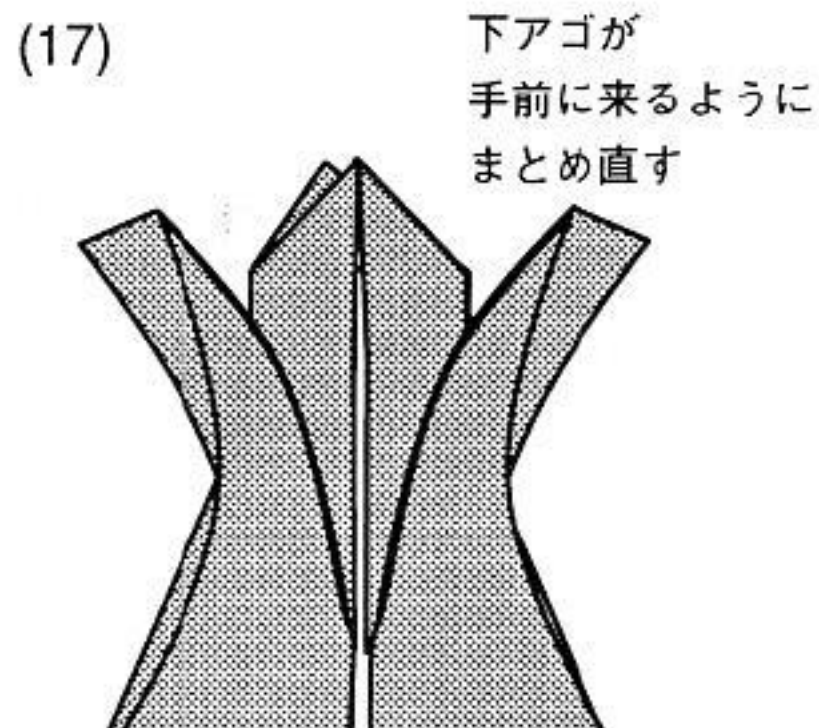
右側も
(7)~(13) と
おなじ



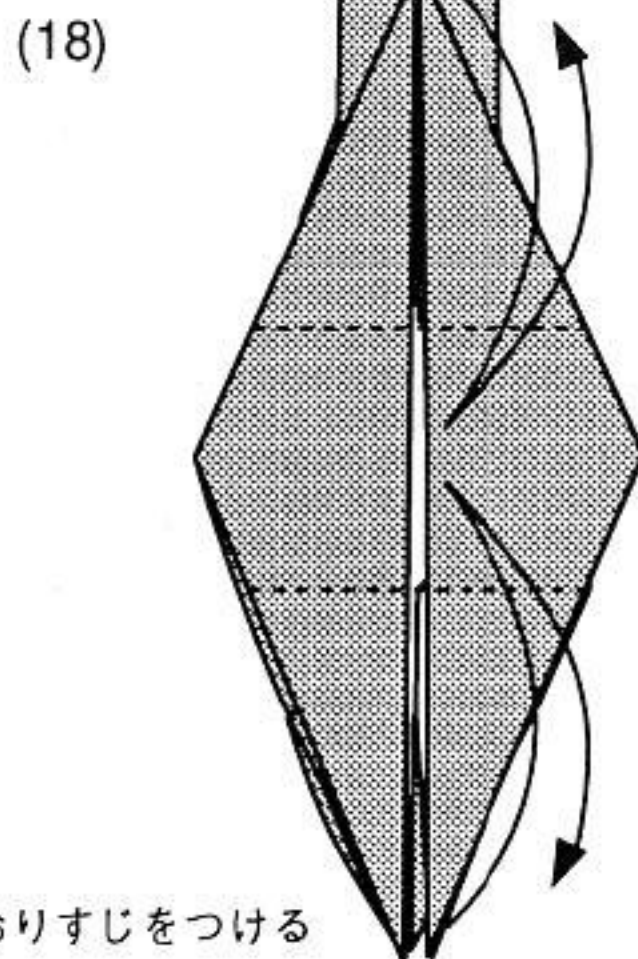
一度全部ひろげる
(実際には (16) の
拡大図部分だけ
ひろげてもよい)



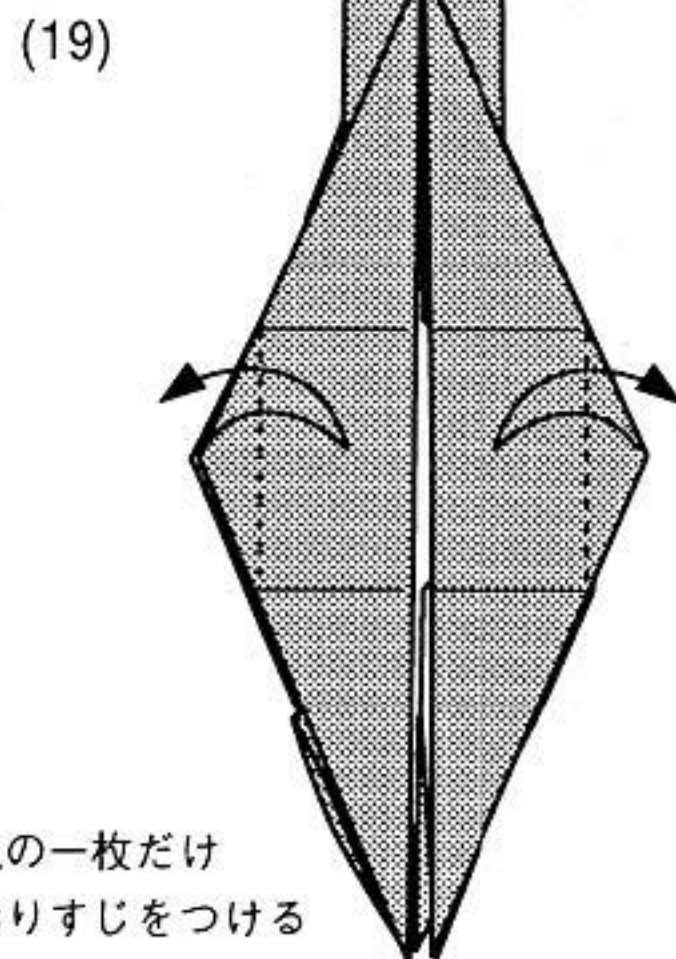
このように
おりすじを
つけ直し



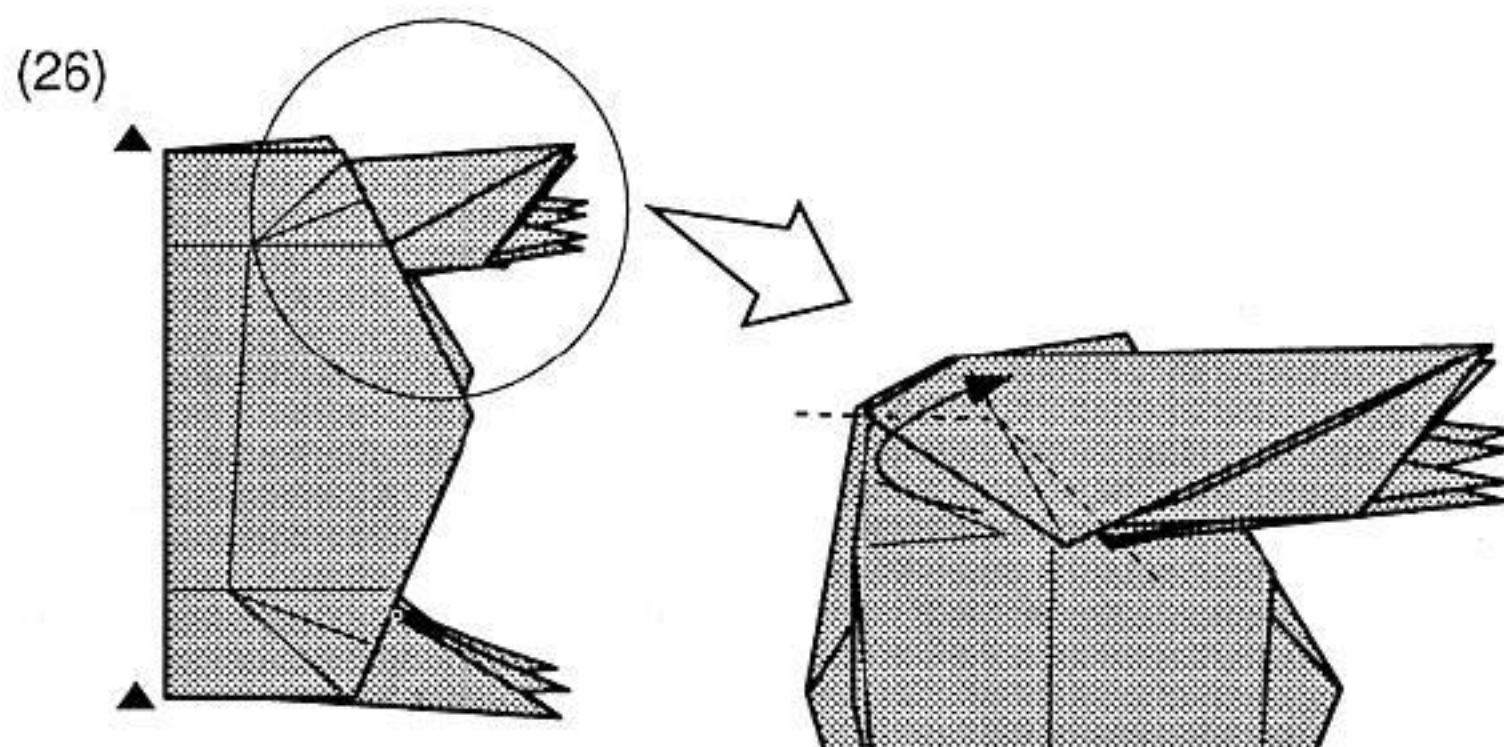
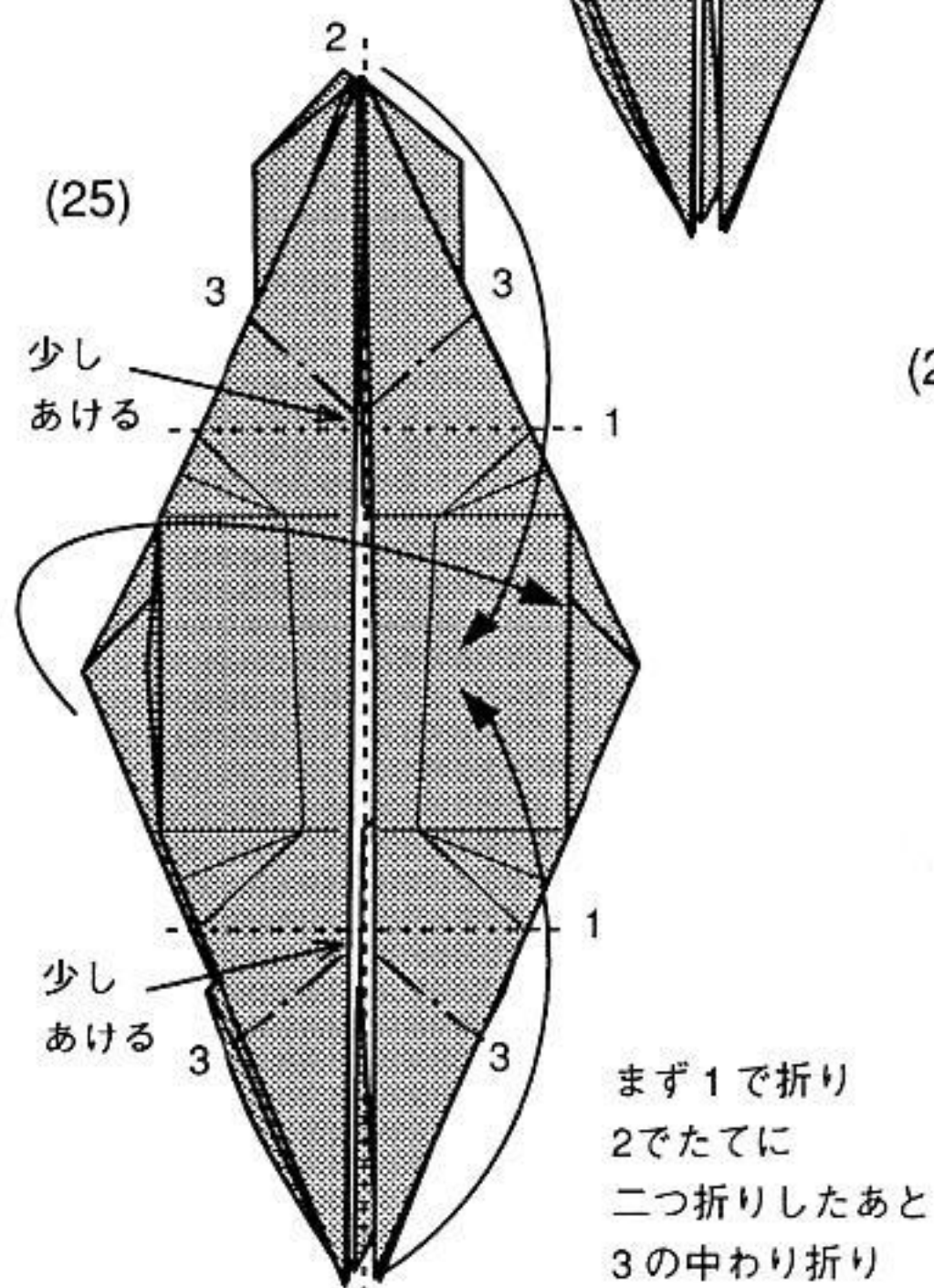
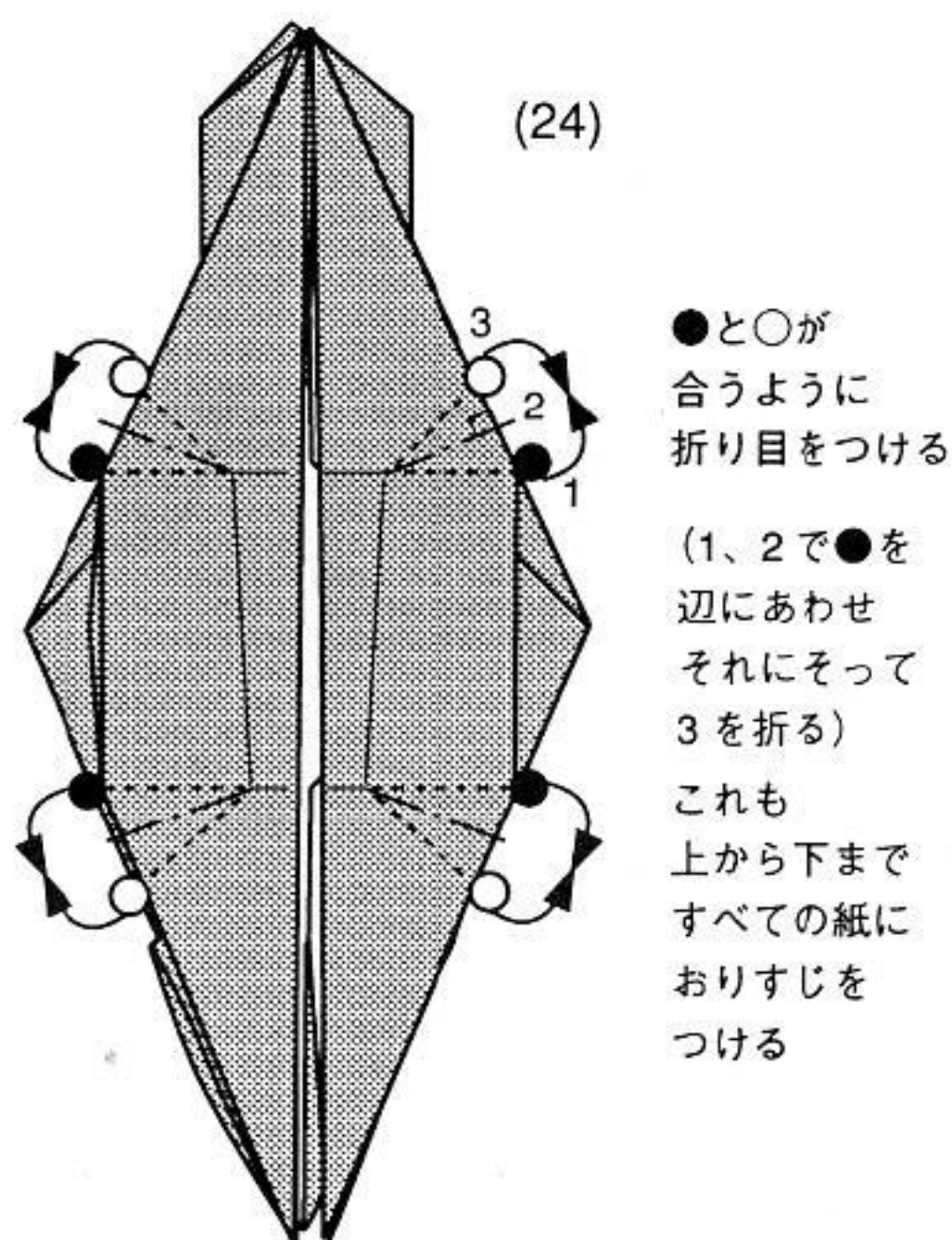
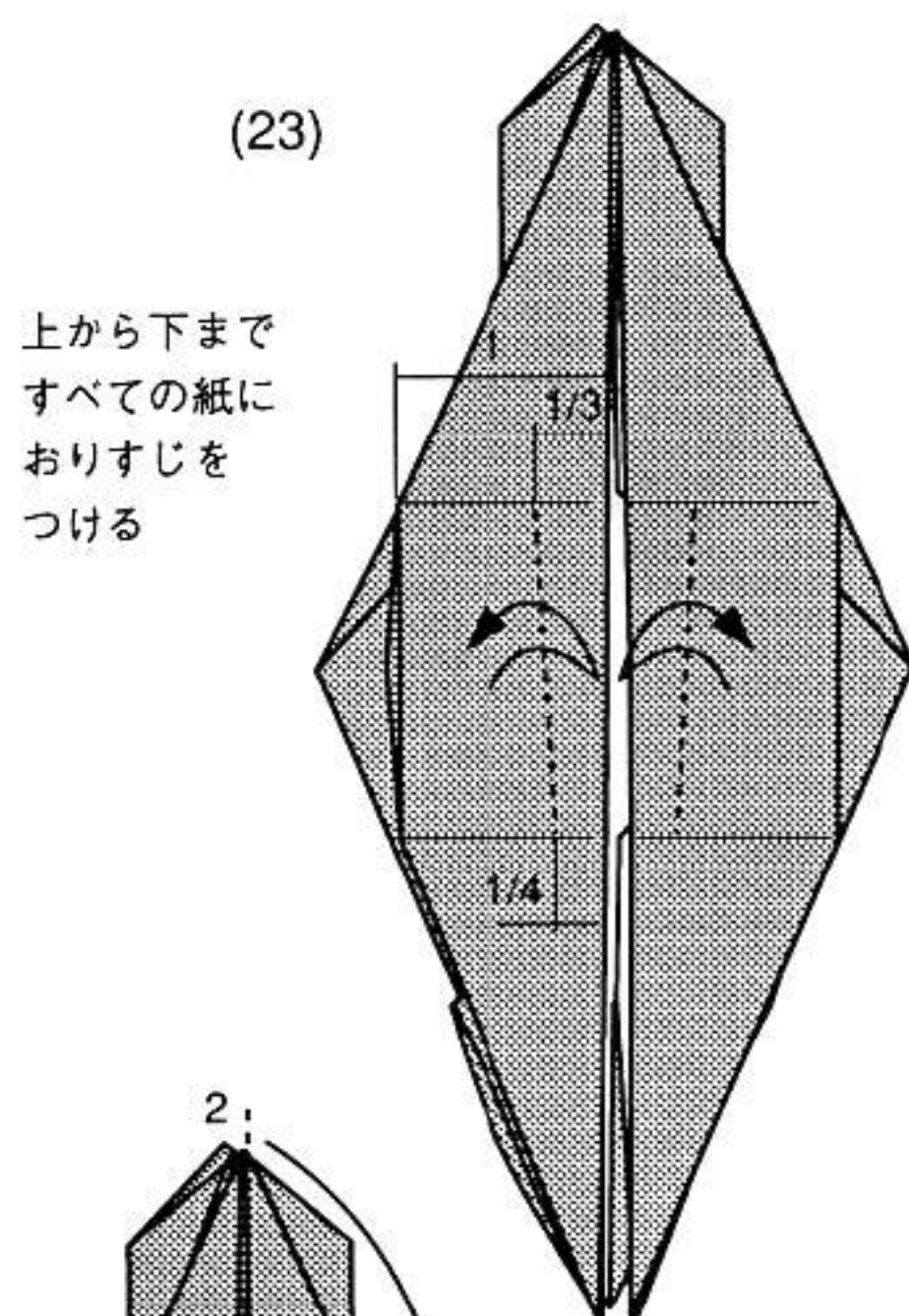
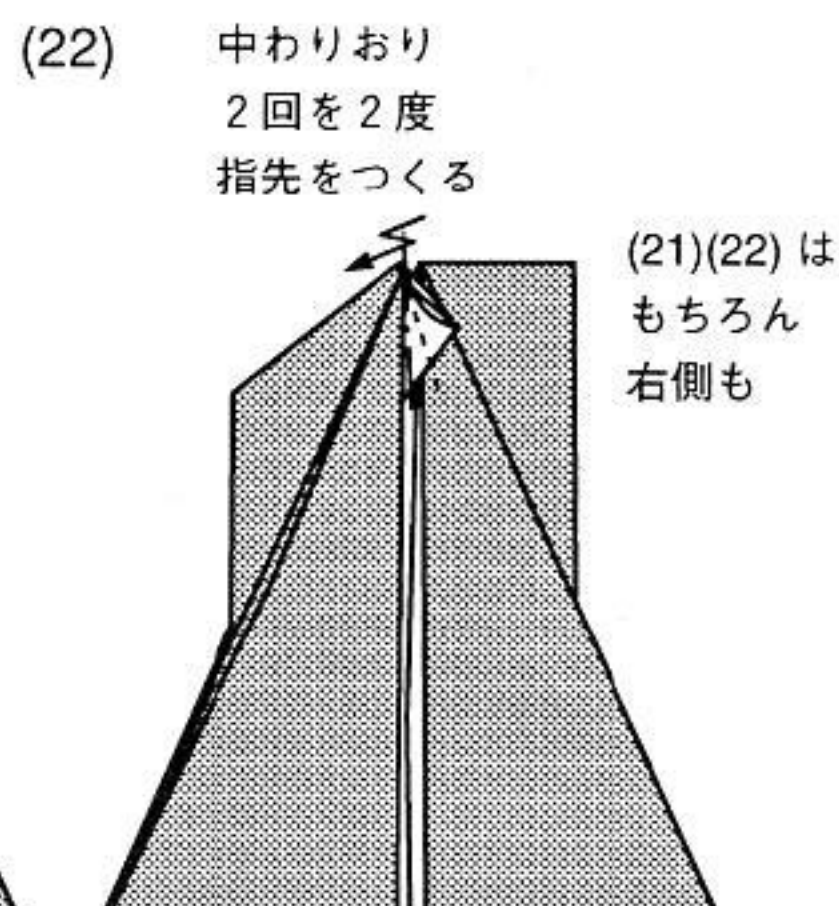
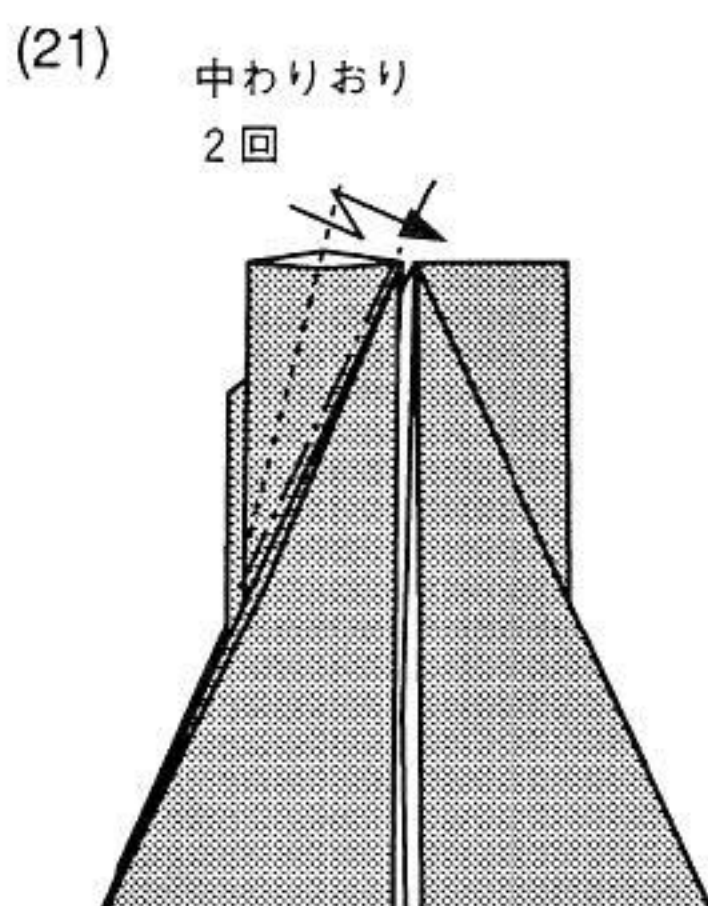
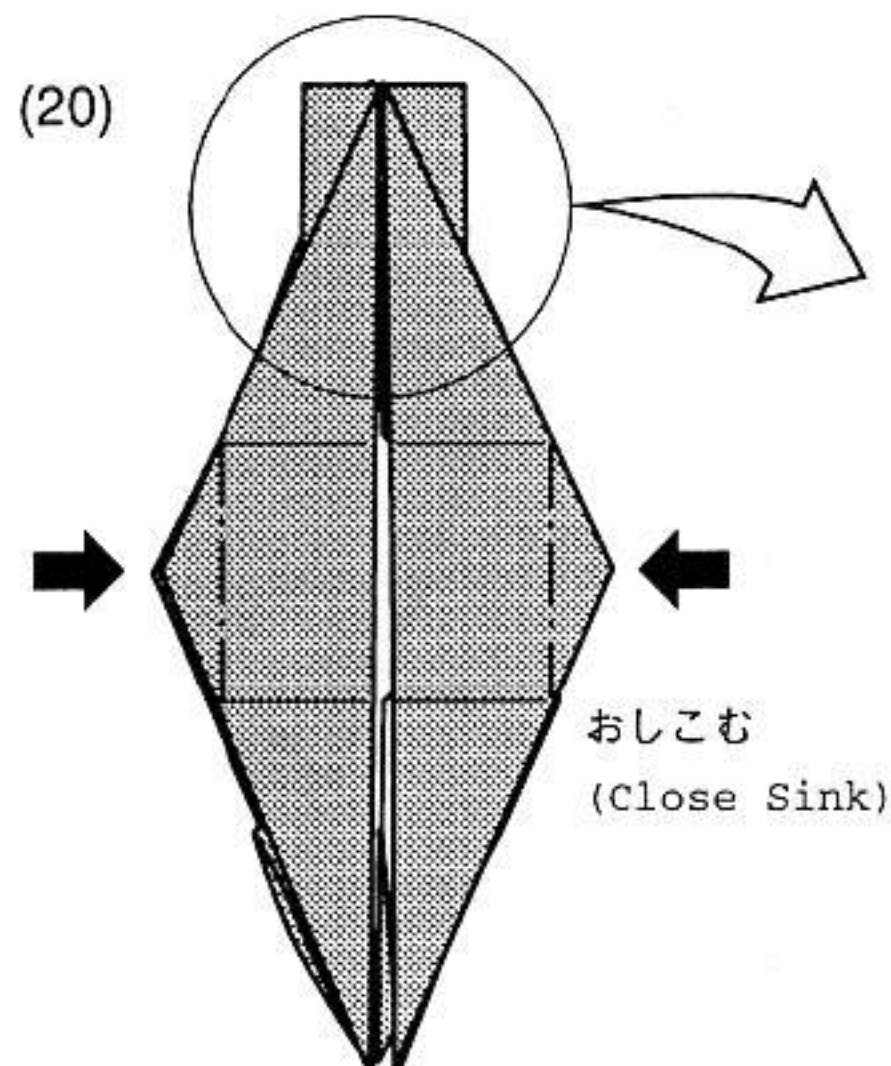
下アゴが
手前に来るように
まとめ直す



おりすじをつける

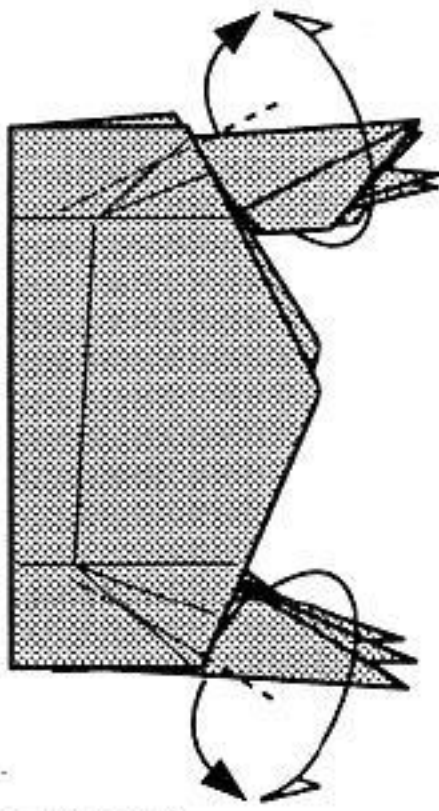


上の一枚だけ
おりすじをつける



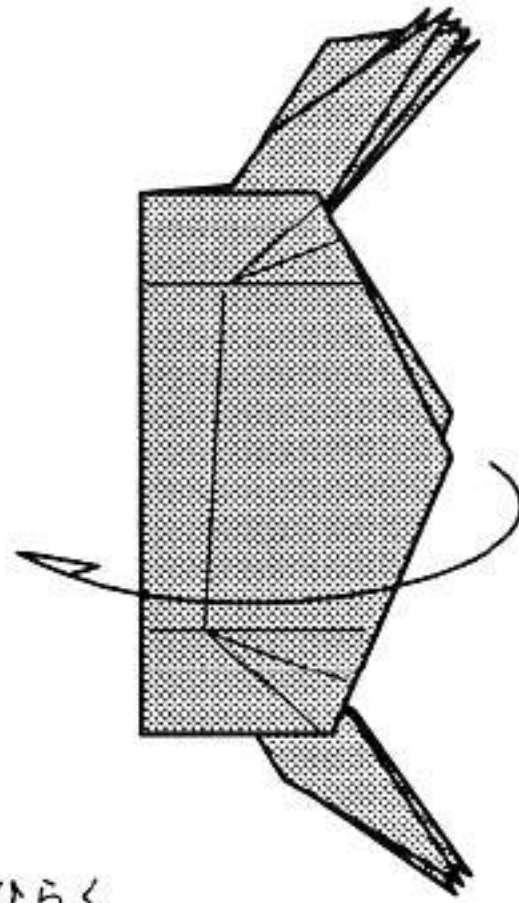
(27)

首と尾を
できるだけ
根本から
かぶせ折り
(折り線はこうらの内側)



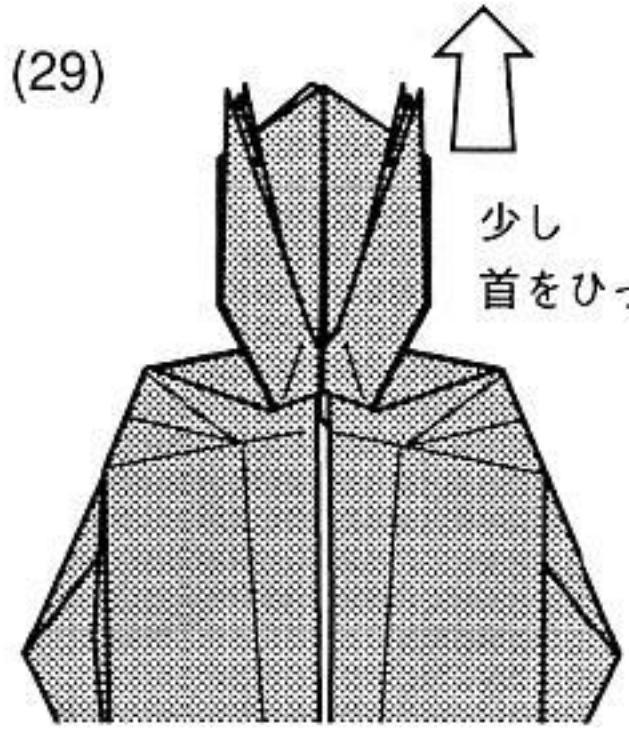
(28)

ひらく



(29)

少し
首をひっぱる



(30)

腹から指をいれ
このピラミッドを
おちょこにする
(紙一枚のみ)



(31)

のこり3カ所も同じ

しっかり
山折り

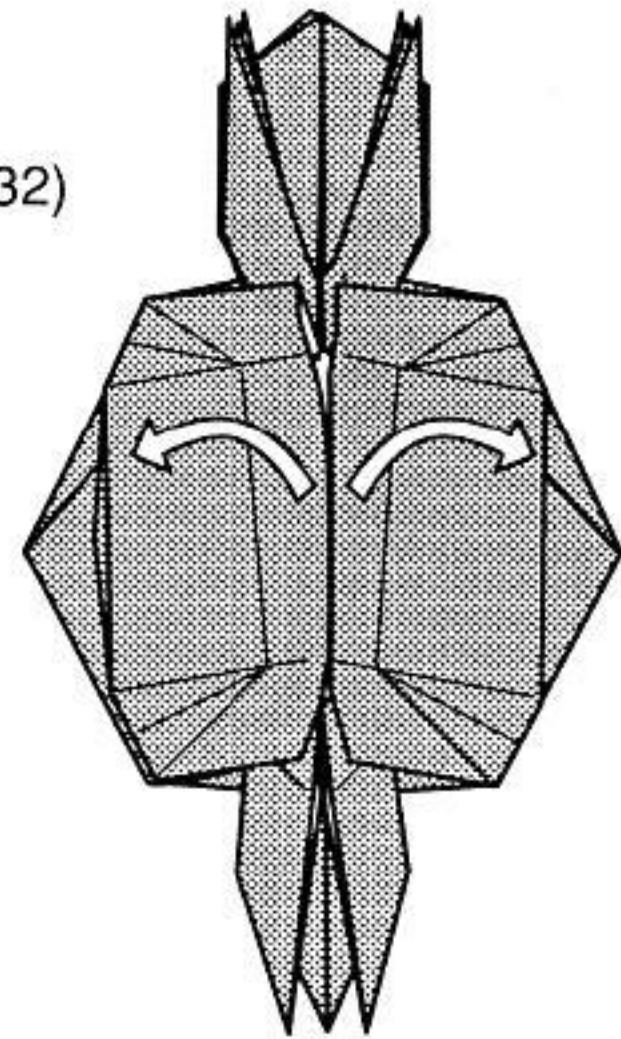


(32)

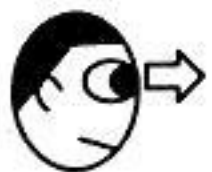
腹の紙を
ひろげる



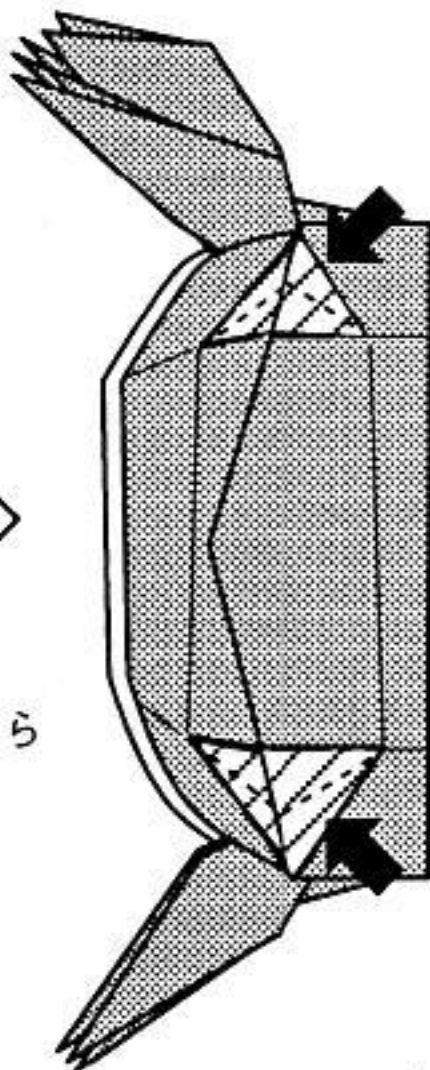
次の図は
こちらから
見る



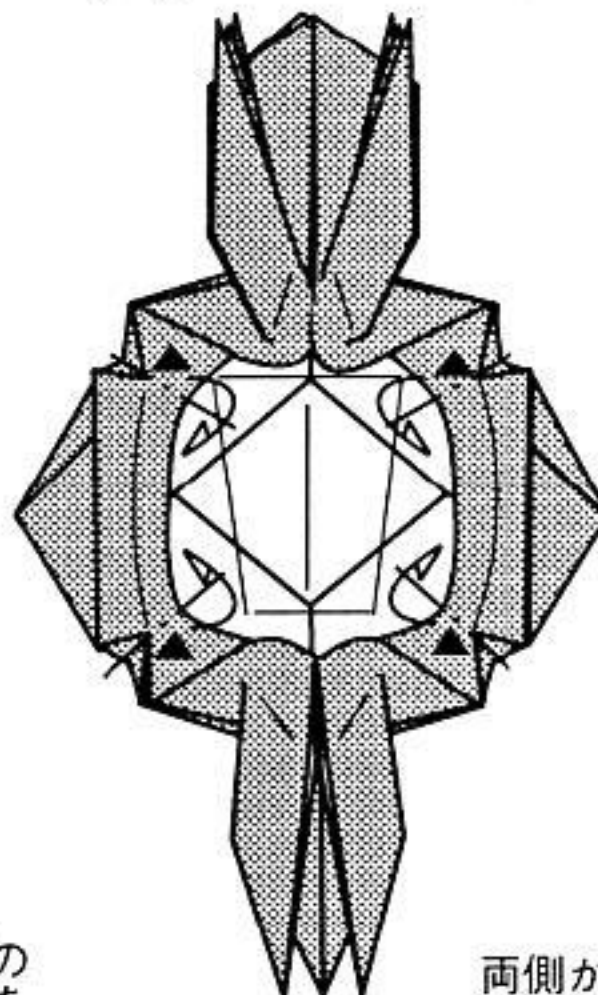
(33)



次の図は
こちらから
見る

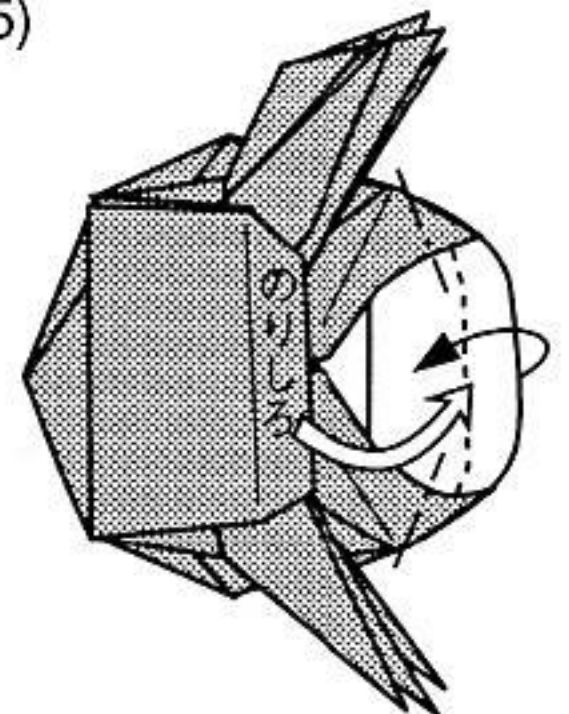


(34)



(24) でつけたダイヤ形の
折り目にそって斜線部を
中に押し込む (4カ所)
のりづけする方がよい

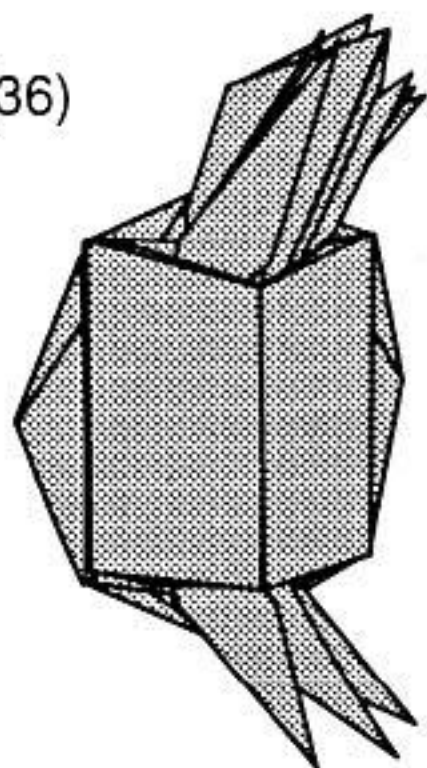
(35)



腹の大きさを
調節しながら
片側にポケットを作り
その中にもう片方に
のりをつけて差し込む

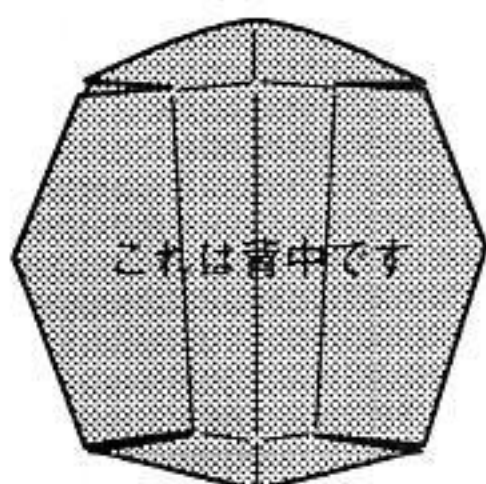
両側から
しっかりつまむ
▲部は山折り線

(36)



甲羅の形を整える

首側 カーブをつける

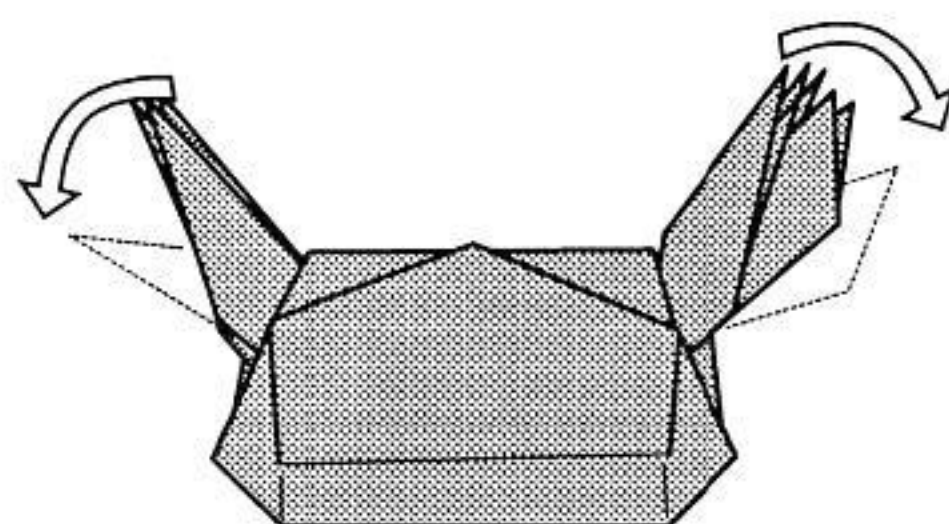


これは音中です

尾側 少しとがるように

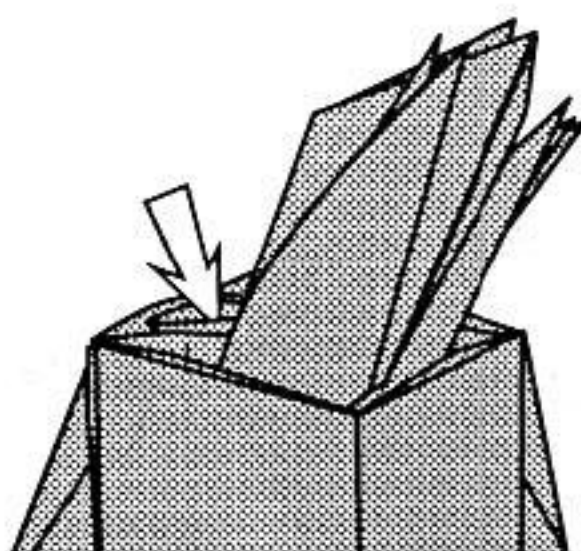
(37)

首、尾を水平方向に
ひっぱり
形をととのえる



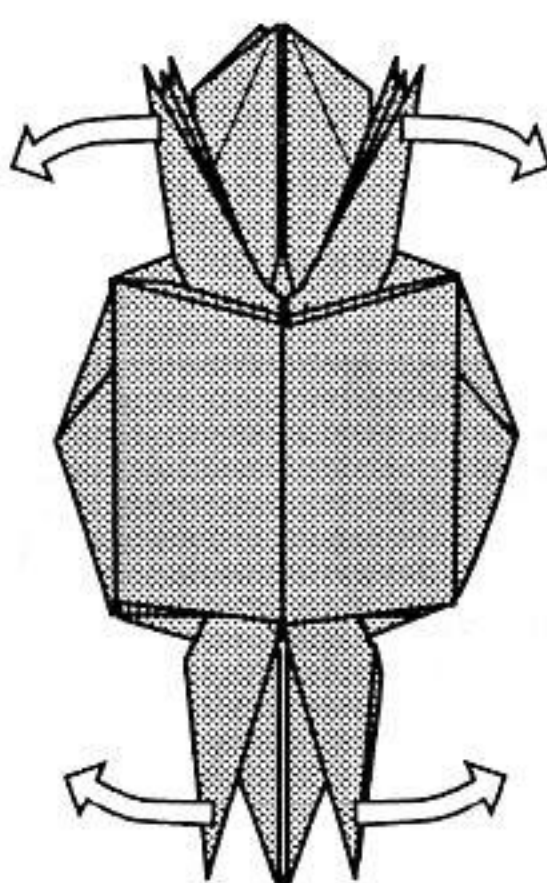
(38)

首と前足の付け根の
重なった部分の
ロックをはずす



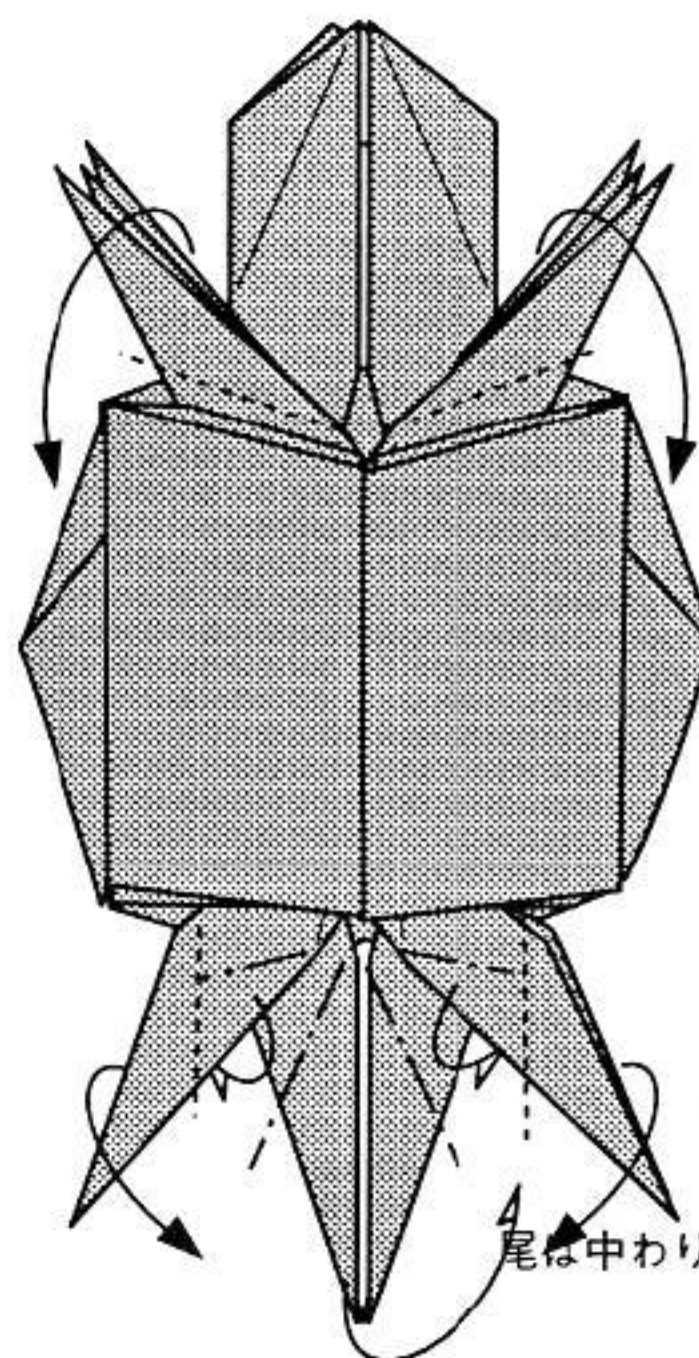
尾と後足も同様

(39)



左右に開く

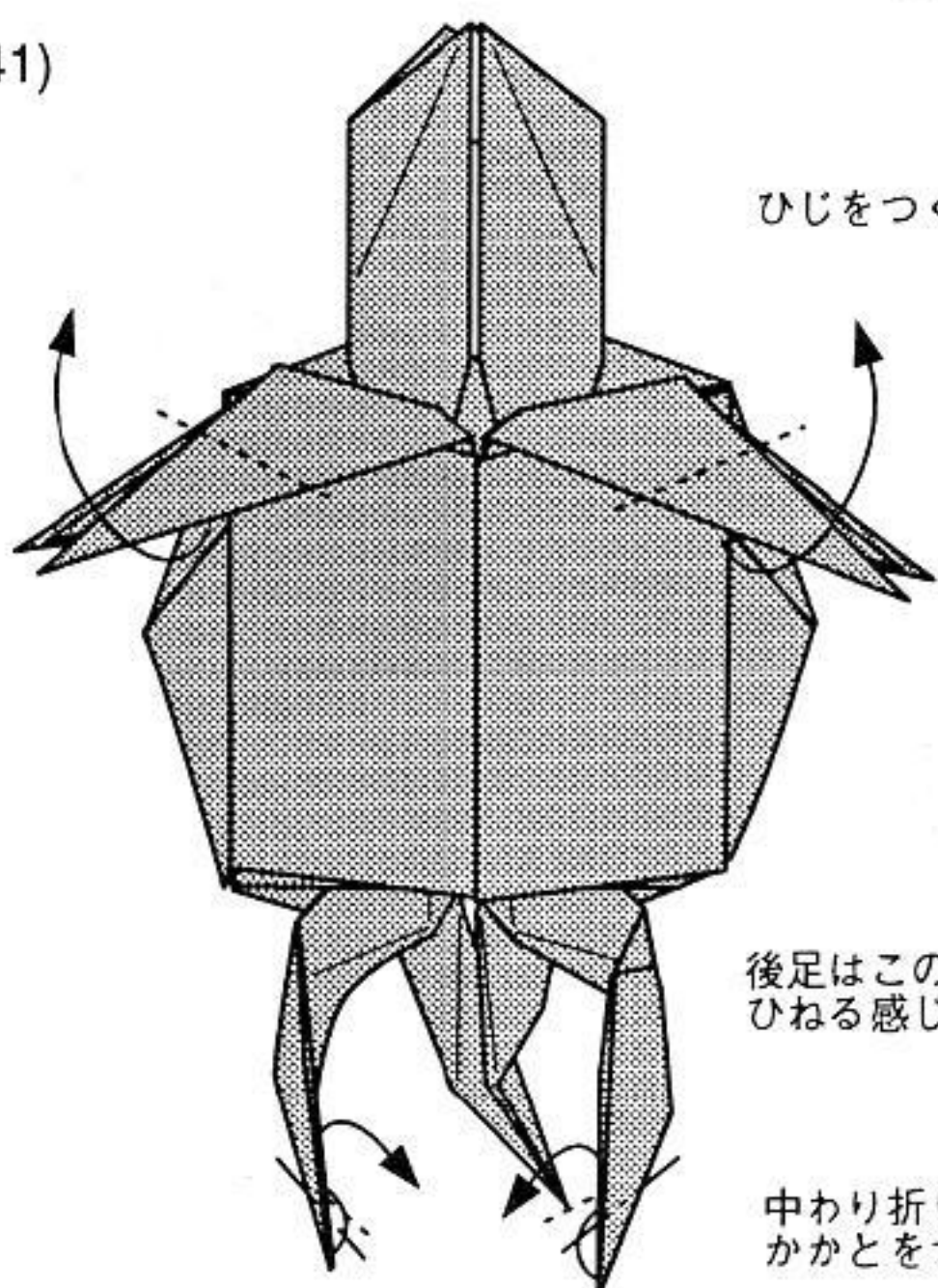
(40)



尾は中わり折り

(41)

ひじをつくる

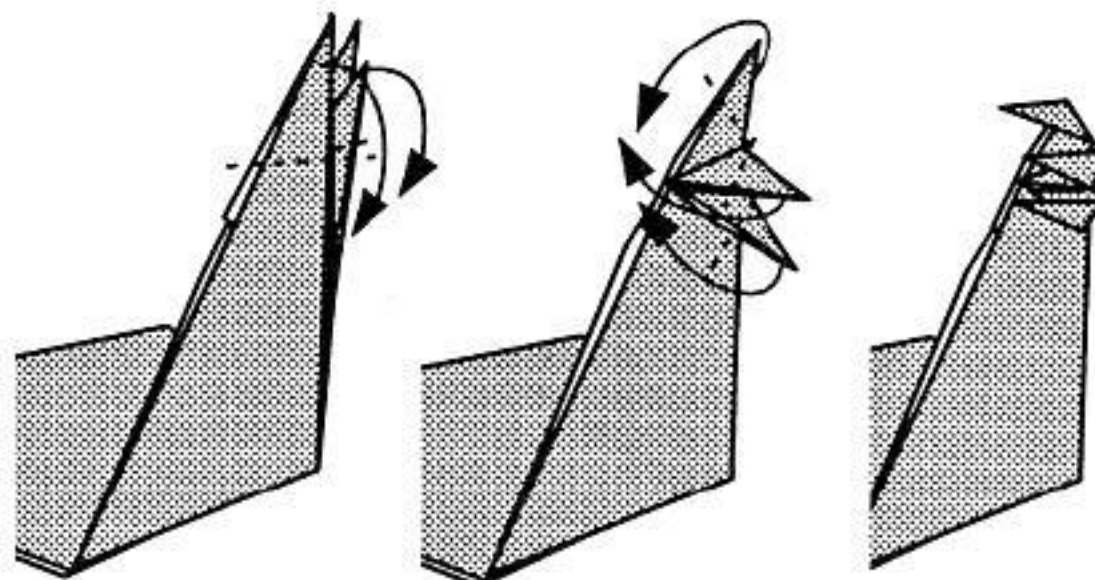


後足はこんなに
ひねる感じ

中わり折りで
かかとをつくる

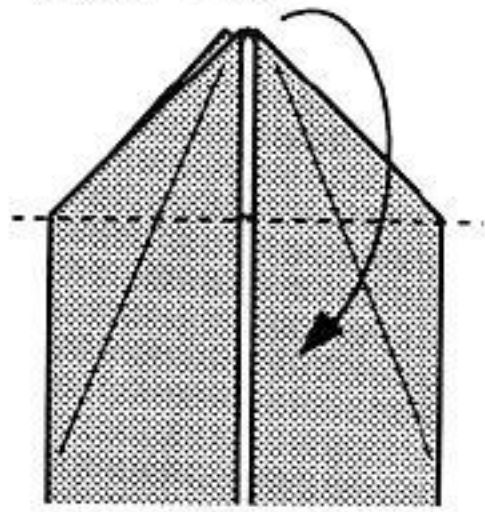
(42) 指の折り方

手前の2枚を
下に折る



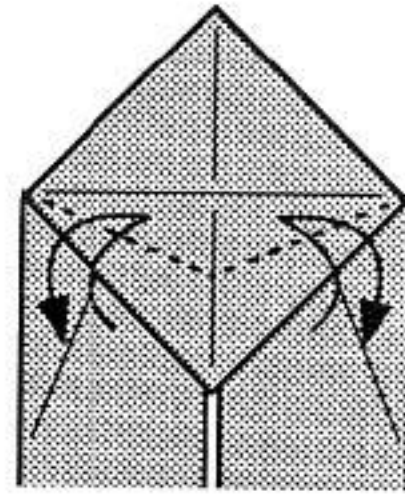
(43) 頭を作る

腹側から見る

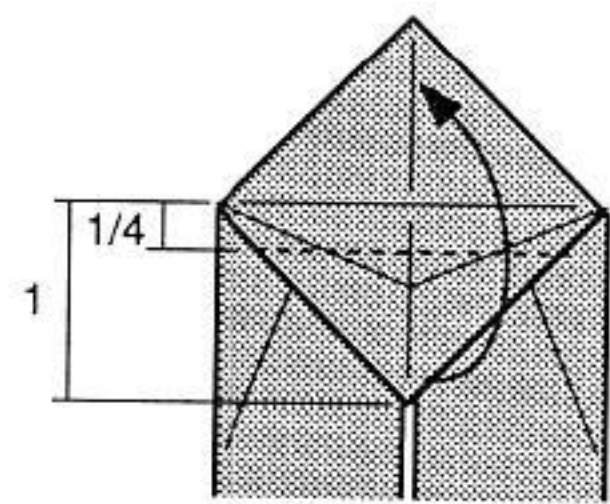


(44)

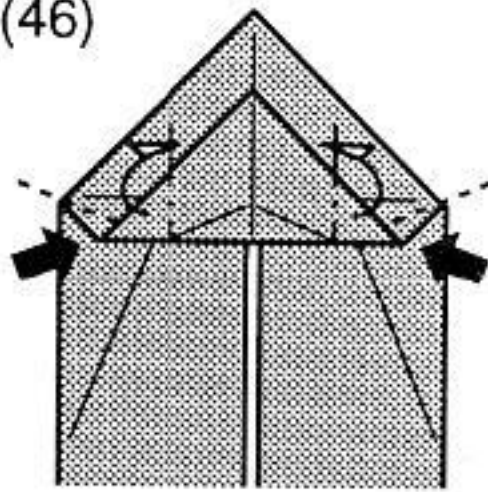
折りすじをつける



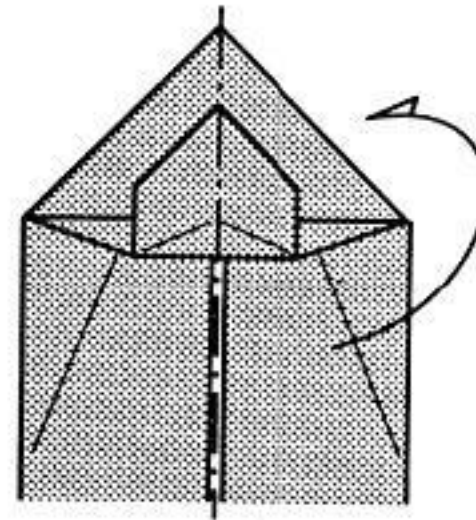
(45)



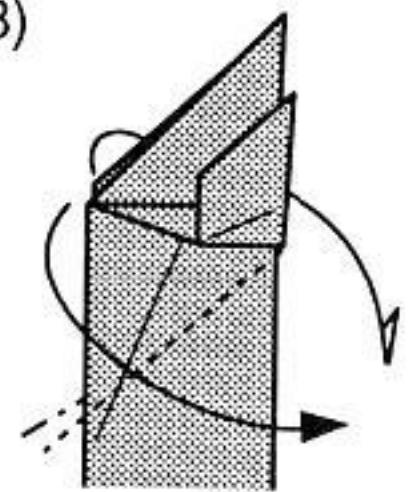
(46)



(47)

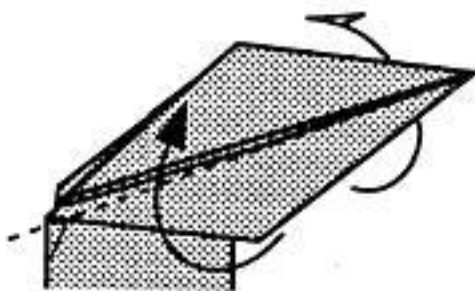


(48)

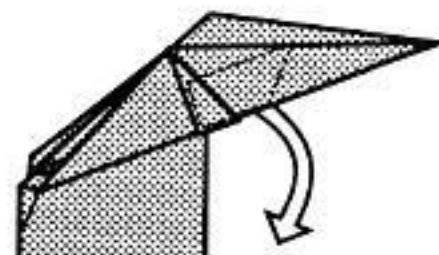


かぶせ折り

(49)

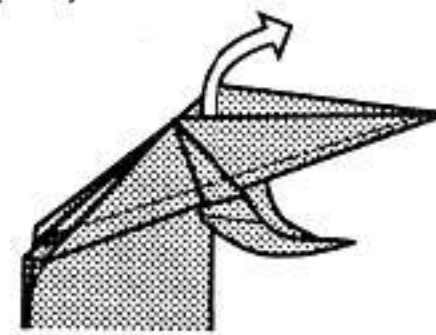


(50)



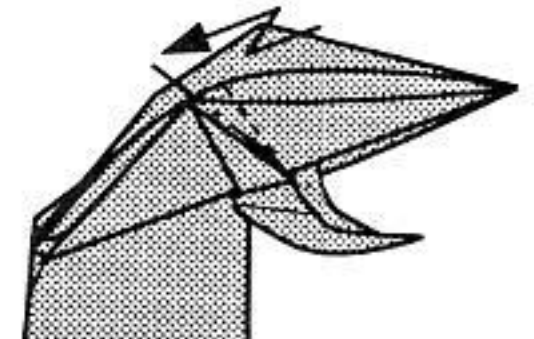
下アゴを引き出す

(51)



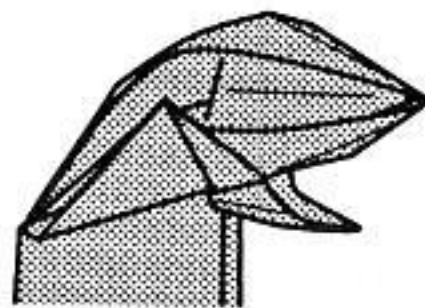
紙を一枚ひきあげる

(52)

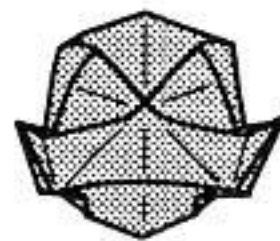


キバのあたりを段折り

(53)



こんな感じに仕上げる
鼻先が丸くならないように



正面

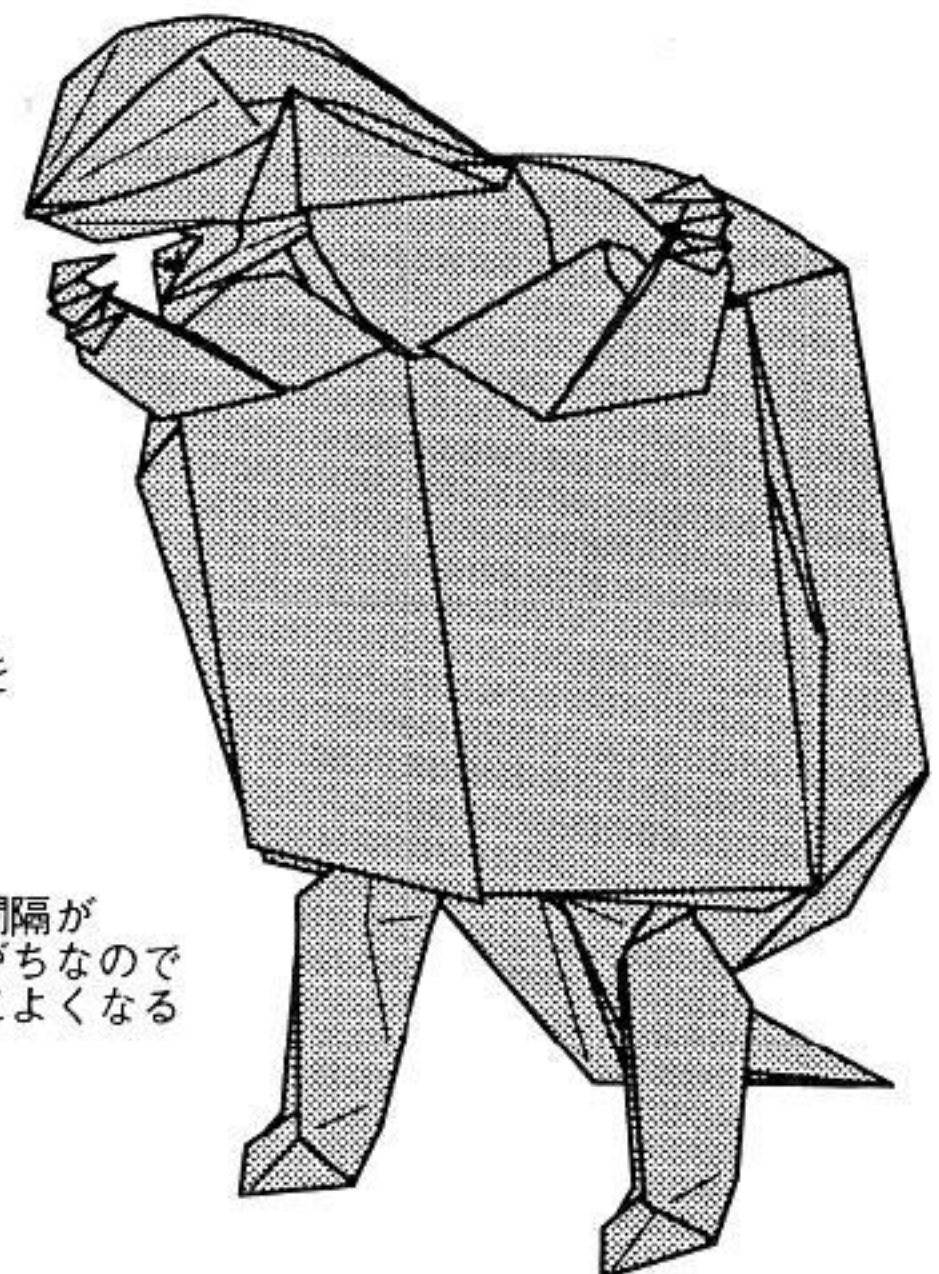
完 成

手足の形を整え
全体的にポーズを
決めたら完成

*手足は左右の間隔が
寄り気味になりがちなので
広げた方がカッコよくなる



ささでです
東京タワーで
電波飛ばしてます
(34号おりすじ参照)



折紙探偵団
コンベンション目前

手描き折図のススメ

基本編

山梨雅弘

ススメたって、トコトコ歩けてのじゃありません。マックが無くても、絵が下手でも折図は描けます。ローコスト、アナログ折図のススメ。元デザイナーの秘技(手抜き術)、教えます。

パソコンなみのシャープな線、楽しいレイアウト、道具を選べばカンタン!……と、宣伝しとけば、もっと探偵団新聞や、コンベンション折図集がにぎやかになるのではと、期待しています。おりがみはうすに飾ってあるアータの作品、折図チョーダイ。

描く道具

- 鉛筆、消しゴム
- サクラ ピグマ 005、02(黒)
1本200円のだれでも同じ太さの線がかけるスグレたサインペン。乾くと耐水性。数字は太さです。
- 三角定規、分度器(100円ショップの小さいのが便利)
- 直定規(ちと高いが水平、垂直の目盛りのあるものがベスト。もち、透明なもの。約1500円。)
- PPC用原稿用紙(オストリッチ社のA4、5mm方眼がいい。無ければコクヨのコピー用箋でも可。)
- スプレーのり(3MのNORIKOなら700円)
- デザイントーン TH-63(網点を印刷したノリ付きセロハン。有名画材店で700円くらい。)
- 電卓(図の拡大用。コピーで拡大しても。)
- お手持ちのワープロ。無ければ、鉛筆で書いといて、山口先生に、お願いしてみては。

描くテクニック

ノートなどに、まずは下書き。折った完成品を一工程づつ、分解しながらラフスケッチ。実物の外形をなぞって内側の線を描くもよし。どうせ、あとで定規で描くんです。ヨレヨレで充分。正方形に戻るまでを描いて、逆並びにラフ折図の完成です。

分かりにくい表現はありませんか。困ったときは、山口名人がどう描い

てるか、参考にして、工夫しましょう。矢印も試しに描いてみます。

ちょっと一服したら、さあ、本番。PPC原稿用紙は、薄い紙にコピーに写らない青い方眼が印刷してあります。あなたの作品が手元にないので、ここでは筆記具の練習。ピグマ02と定規で、ケイ線にそって3cmの正方形を描いてください。できるだけ、一定の速度で線を引き、はみ出さないように。以外に簡単でしょ。次に対角線は005で。かどは1mmほど空けて引くときれいだし、折りスジと外形がはっきり区別できます。こんどは風の基本形の折りスジを一方は山折り、反対側は谷折りで描いてみます。角度は22.5°、分度器を当てて鉛筆でマーク。もちろん、線を引き

くのは四角の中。点線、二点鎖線はできるだけ間隔が一定になるように。太さは02。

ここで、さらに一枚の原稿用紙を重ねて、風型を写します。一方は谷折りなので、表に折ったカドと対角線を描きこみます。折ったカドはすこしずらせて描くと分かりやすい。紙が薄いのでラクチン。

こうして二枚の図を交互にトレース変型します。図がちいさくなったら、電卓で寸法をだして、線を延長して描き直すか、コピーで拡大します。図を裏返すときも、紙の裏からトレースして、必要な線を描き足せばOK。ほーら、カンタンでしょ。

折り進むにしたがって、かさなって見づらくなってきます。鉛筆で正確な図を描いて、実物を見ながら、ズラシて、紙の重なりが分かるように広げて描き直しましょう。ぐんと分かりやすくなったでしょ。

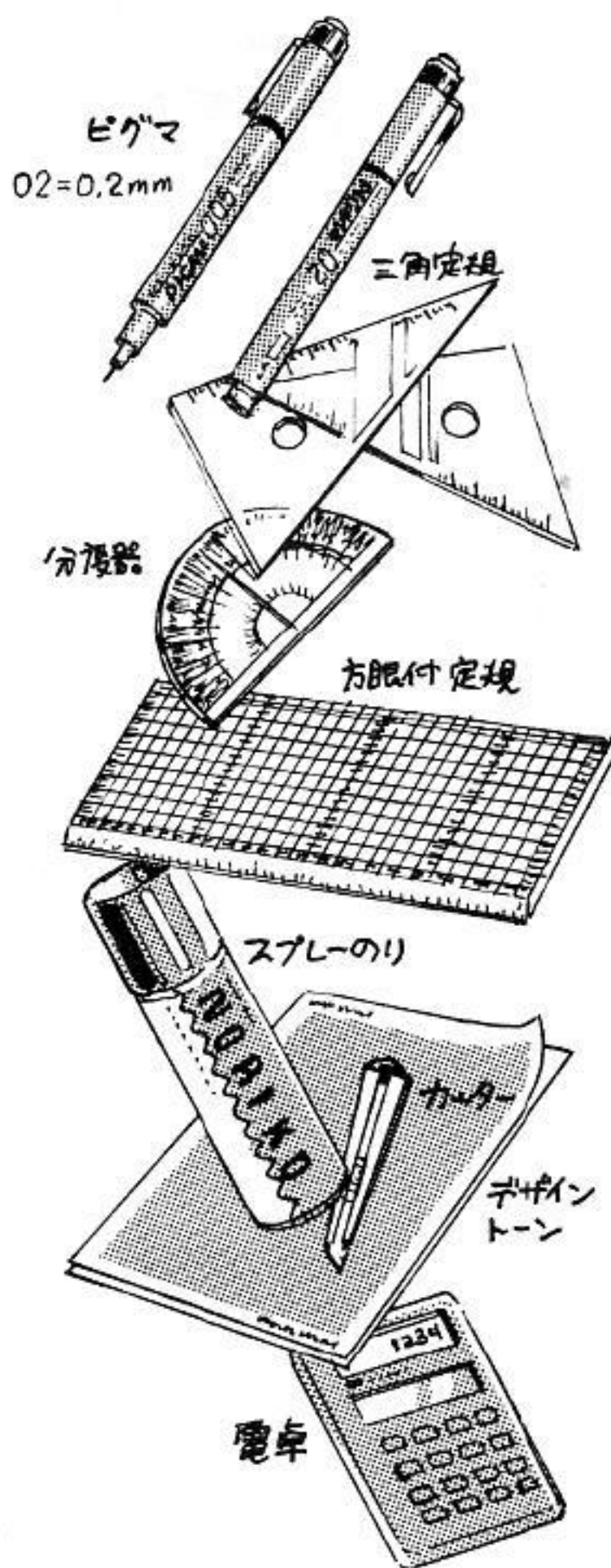
すべて描き上がったら矢印。これだけは難しい。円弧で済むところはビンのフタでもなんでも定規にして済みますが、自由曲線、これはエイヤッと02で。ここまで紙を汚さずにできましたか。

仕上がった図をはさみで切り抜き新しいPPC原稿用紙にのせてレイアウトを決めてください。タテヨコ向きも変えてポジションが決まったら、古新聞を敷いて、数枚ずつ裏返しにのせて、スプレーのり。説明文を入れるなら、ワープロで打ったのも一緒にノリを吹きます。裏から。

所定位置に貼ったら、全体を見回わして、文字の曲がりなどをチェック。貼り直しのきくノリなので便利です。タイトルは安ワープロでも、大きく打っておきます。筆で手描きなどもいいでしょう。

図番号も忘れずに。貼りおえたらデザイントーン貼り。裏紙をはがして図にのせ、必要なところだけ切り抜いたら、不要なトーンをはがして裏紙をのせて、つめなどでしっかりこすりつけます。全部一度に貼らず経済的に使いましょ。

とうとう完成。オリジナルは投稿用、コピーも取っておきましょう。



はじめに
折り手順を
ラクガキ風にメモ

折図の手描き？
定規で描けるから
カンタンですよ。

シガセカ製のウスくなった
とこまで描けませんの！

清書。ピグマは
できるだけ立てて
使います。

こんなモン
フツー、ポケットに
入るのに...
クリップ付
はみでたら
市販の修正液(白)
も使えるよ。

一枚目が
描けたら

二枚目の用紙を
重ねて、折りあがった
外形をトレース。

手前に折った
カドなどを
描きたす

こんどは一枚目を
のせてトレース...
以下、同様に

図が小さく
感じたら、拡大。
変えるのは長さだけ。

矢印も描き加え
折図はハサミで
切り離す。

見やすくレイアウトしたら
少しずつウラにスプレーのり。
汚さずに貼りましょう。

ギザイントーンは
使用法を
よく見て
貼りましょう

いまだにヒッピーしてる
オジサン、
ホントにいたらエライ！

完成

こんな風にのせる本の
外形を示すしを
つけるか、本のサイズに
合わせて、投函しよう！

ワンポイント・アドバイス



定規で正確に描くと
こうでも



下から見た図も
便利なきがあります



上から見たように
カドをずらして
描くと実感が
出て来ます。

※折図は製図じゃありません！
やさしさが狂っても
感じかてくればOKよ！

ま、
やってみてネ！



※絵と文、いわゆるビジュアルのダブルサポート、しました

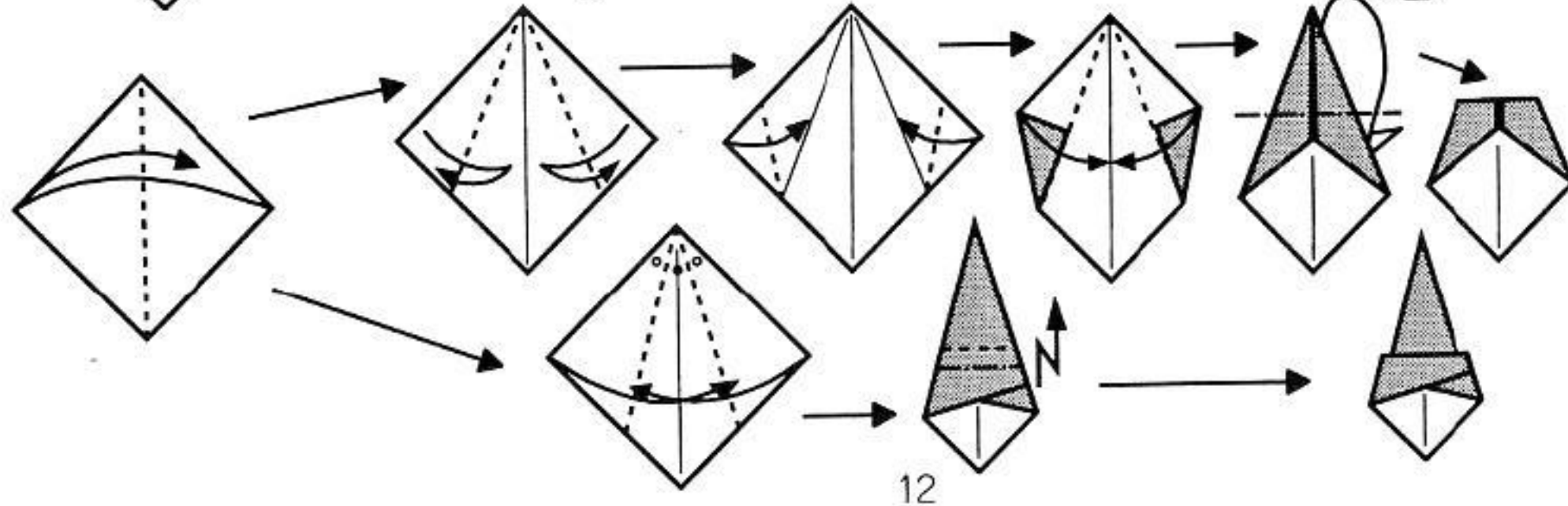
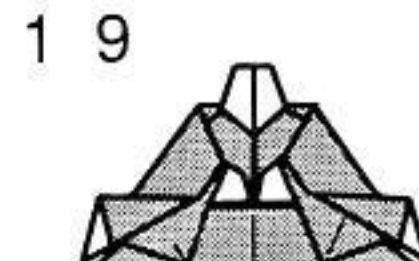
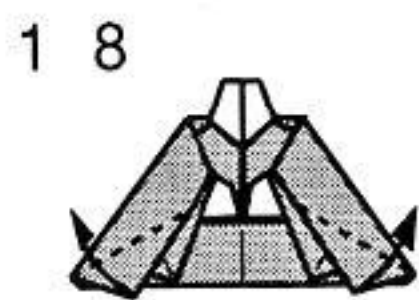
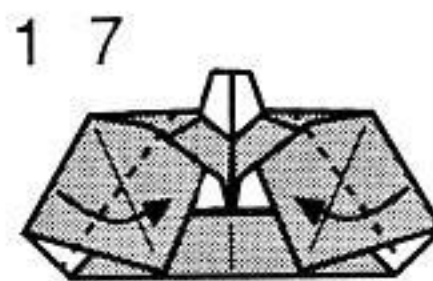
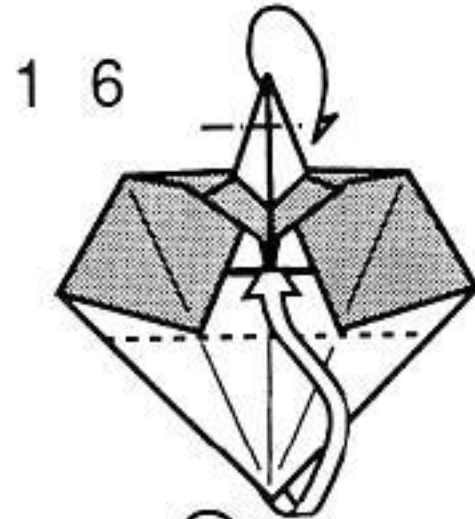
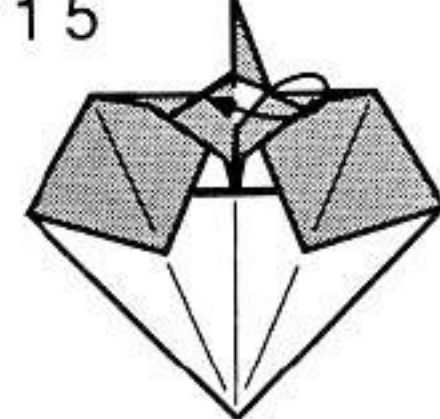
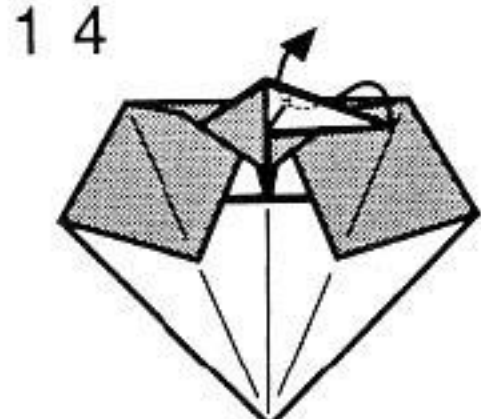
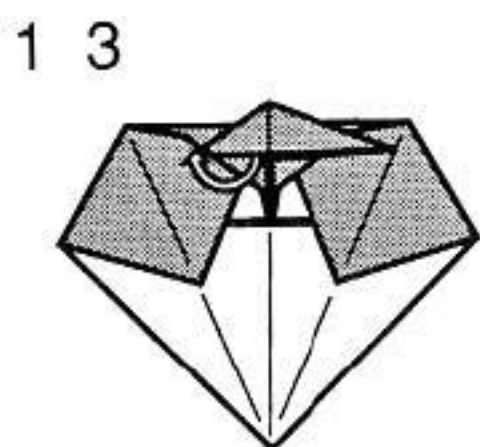
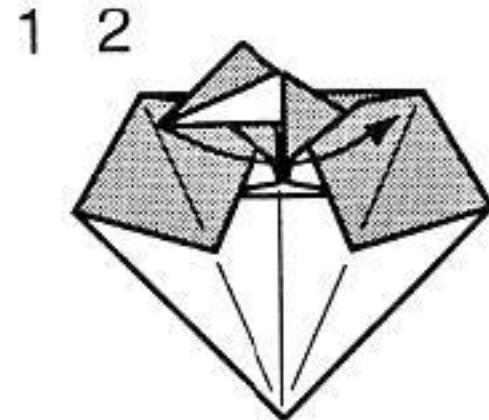
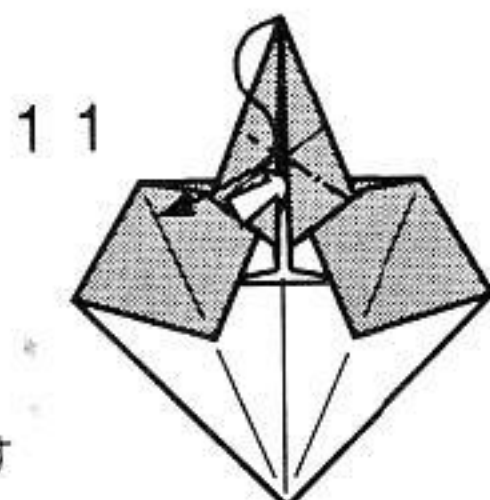
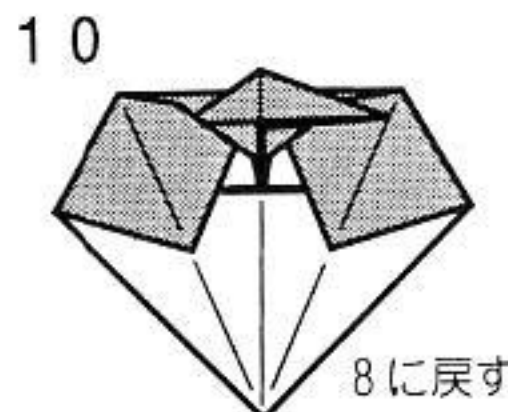
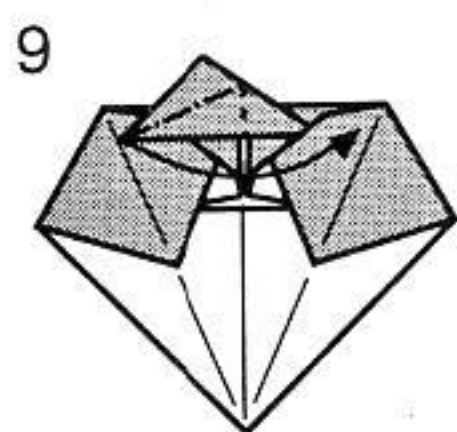
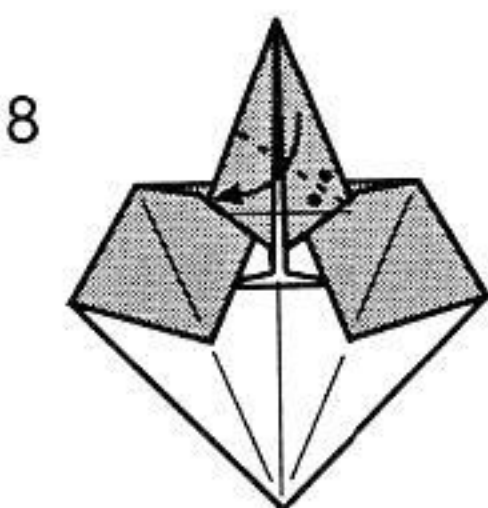
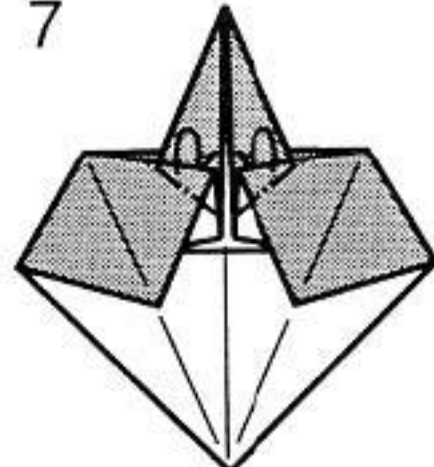
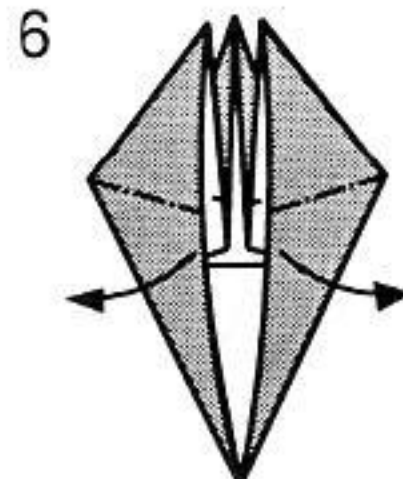
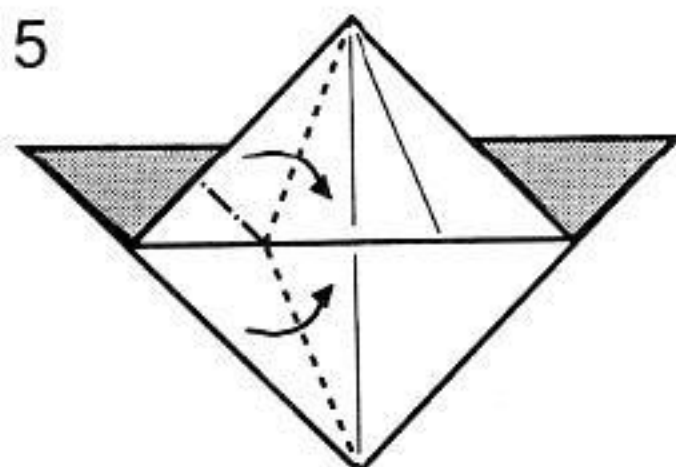
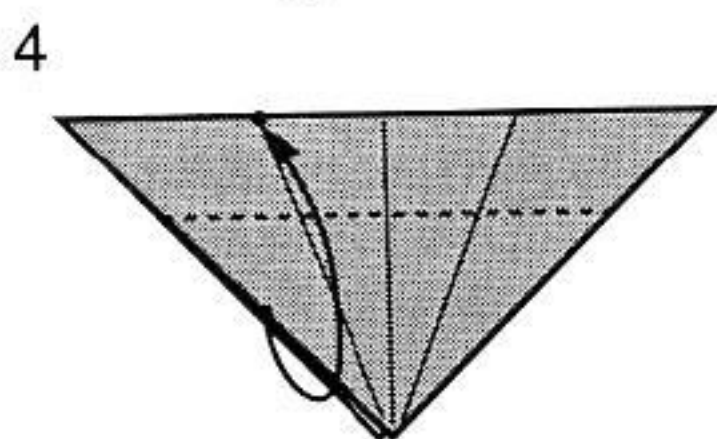
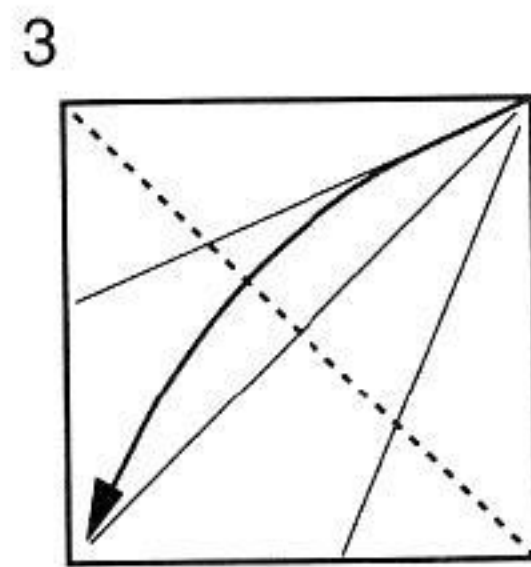
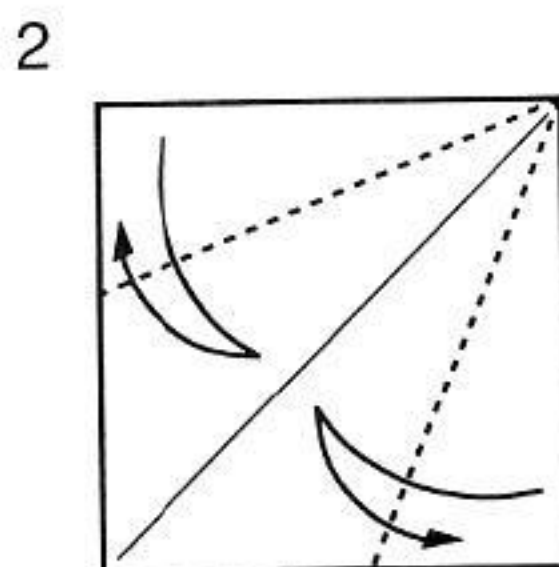
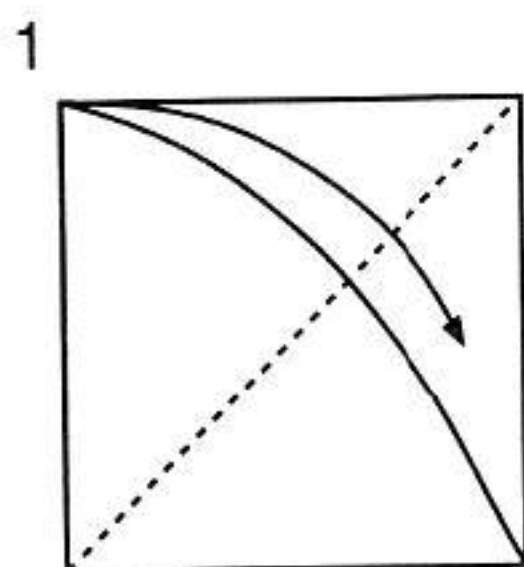
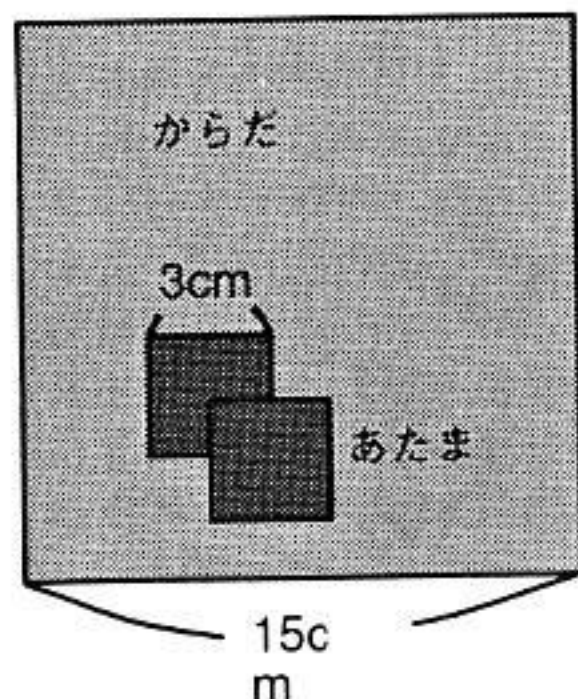
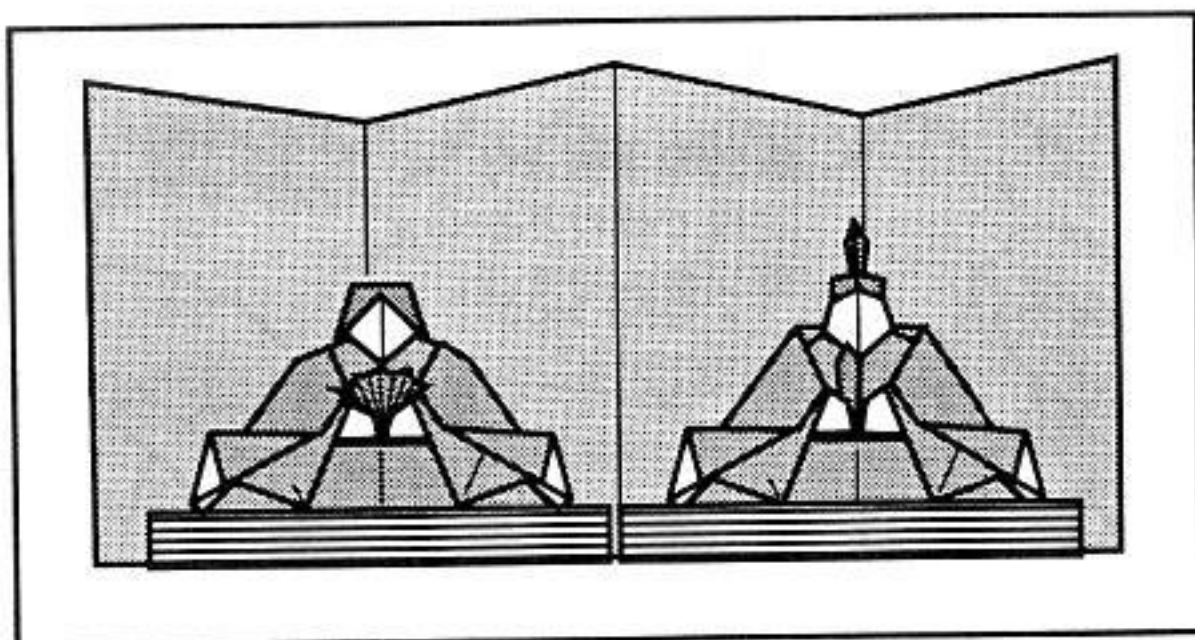
今月の季節料理

おひなさま

作・図 西川誠司

Hina Dolls

by Seiji Nishikawa



めびなは、少し肩を丸くする

折紙探偵団 (オフライン) ホーム・ページ

1. ホーム・ページって何?

最近いろんなところで「ホーム・ページ」という言葉を聞きますが、一体何なのでしょう。

パソコンに電話を繋げば世界中のコンピュータから何やら絵や音楽が取り出せるらしい、ということはもうご存知ですね。この仕組み全体を指して「インターネット」と称することが多いのですが、「インターネット」とはもともとパソコン同志を繋ぐためのネットワークを指す言葉です。パソコンに電話を繋いだものがあちらこちらにあって、お互いが繋がっている。大きなコンピュータも繋がっている、というのがインターネットです。

この、コンピュータ同志のネットワーク（ハードウェア）を使って、簡単な操作で絵や音をやり取りするための手順や取り決めをプログラム（ソフトウェア）にしたものが、WWW（ワールド・ワイド・ウェブ；世界規模のクモの巣）と言われるもので、ちまたで「インターネット」と言われているものの正体です。このWWWは本のページをめくるように見ることができるのですが、このページのことを「ホーム・ページ」と呼んでいるのです。

現在（といっても数か月前の話）、世界中の6000万台のコンピュータが既に電話回線などでインターネットに繋がっていると言われています。そして、実に簡単な操作で世界中のコンピュータから蓄積されている絵や音を拾ってることができるのです。

2 探偵団のホーム・ページを作ろう

今までのいろいろなメディアが「一方的に情報を与えられるだけ」であるのに対し、WWWでは「簡単な設備とわずかなお金で誰でも情報を発信することができる」というところが違うわけです。中にはとある大学の研究室で、コーヒー・ポット

の中身の量をリアルタイムに全世界に発信している、なんてものまであります。これはつまり、それだけ発信する情報を送り手が選べる、ということを表しています。実はもう、世界中で何人もの方が折り紙の情報を世界に向けて発信しており、WWWの環境さえあれば自宅でそれを見ることができるのです（図1参照）。

ご存知のように、探偵団新聞や雑誌「をる」などで活躍している最先端の折り紙作家には、パソコンを使って折り図を描いている方々が少なからずおられ、既に相当の折り図がデジタル・データとして蓄積されています。また、今まで私たちを楽しませてくれた連載などの文章も全て文字データとしてパソコンに残っています。情報発信をする上で最も大変なデジタル・データの蓄積が、探偵団では既に資産として実現されているのです。そして、今も続々と増え続けています。そこで、それを活かそう、探偵団のホーム・ページを創ろう！という気運が盛り上がったところに、成安造形大学からインターネット・エキスポ96に参加するので協力しないか、というご提案を戴き、検討するに至りました。

折紙探偵団がホーム・ページを持つことによって、こんなことができるようになります。

- いち早く探偵団の活動を知ることができる
- 最新の折り図を見ることができる
- 居ながらにして探偵団の活動に参加できる
- 探偵団員以外にも宣伝できる
- おりがみはうすの臨時休業日を知ることができる（笑）

3. 何をしたいの？

実はもう、国内某所のコンピュー



図1 情報ページの一例

タをお借りして、図2のような折紙探偵団ホーム・ページの実験を始めています。

- 探偵団新聞の補完
- 活動の紹介……こんなことをやっている
- 人の紹介……こんな人が創ってる
- 作品の紹介……こんな折りたいたい！
- 世界中のオリガミアンたちとの情報交換

何らかの形で折紙探偵団としてのホーム・ページを持とうということについてはほぼ決定されていますが、どういう形で成安造形大学の取り組みと関わっていくかについては、大学側がエキスポへの参加の是非を含めて検討中であることもあり、まだ決まっていません。

折角双方向メディアのインターネットを使うんですから、他人が作ったホーム・ページをただ眺めているだけでなく、折紙探偵団ホーム・ページと一緒に作りませんか？詳しくは探偵団が実験的に仮設しているホーム・ページにアクセスしてください。96年2月現在のURLは次の通りです。

<http://133.40.74.248/index.html>

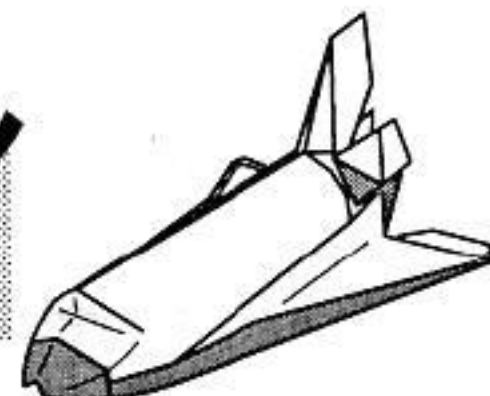
もしまだWWWは見られないけどパソコン通信などで電子メールは使える、という方は電子メール・アドレスyoshino@dsc.co.jpにご意見を下さい。その際、この記事に関するメールであることがはっきり分かるようにお願いします。

（文責 中西）



図2 探偵団ホームページ制作は着々と

第2回折紙探偵団コンベンション 5/25・26日に開催決定！



折紙探偵団では、昨年に続き本年も「折紙探偵団・コンベンション96」を開催します。日時は、1996年5月25日（土）、26日（日）の両日。会場は、昨年と同じ「文京区民センター」（都営三田線春日駅および

地下鉄丸の内線・南北線後樂園駅）。本誌前号で講師と折り図集の募集を行い、現在、続々と講師陣がエントリーを始めています。今回のプログラムのトピックスをご紹介します。

プログラム・トピックス

なお、プログラムは都合により変更になる場合がありますのであらかじめご容赦ください。

◎三角形の合同と内心については予習しておくように

昨年は、一般参加に徹するといっていた川崎氏。今年は、はりきって講師としての参加だ。

「変形折鶴・前川式新・折り鶴はもう古い」と題して、折り鶴を題材に幾何学的理論を展開する。厳密な数学の世界をいつも平易に解説してくれる川崎氏だが、今回は「三角形の合同と内心については予習しておくように」との伝言があった。他に折り方教室として「潜水艦か戦闘機トムキャット」。

◎「ウルトラホーク1号」「スペースシャトル」

ついに登場木村氏の「ウルトラホーク1号」。特撮ファンならずともうなってしまう完璧なデザイン。更にアルファ号・ベータ号・ガンマ号の合体も楽しめる。

初の日本人パイロットととなった若田さんと同じ年に生まれた西川氏は、憧れを込めて「スペースシャトル」（「季刊をる」11号に写真掲載）を予定。

◎インパクトのある造形に挑戦

吉野氏は、「季刊をる」11号でのインタビュー記事から「いのしし」を。



「いのしし」の逆立つ毛をインパクトのある造形で表現。

◎競演から1年半あのアーミーナイフが

「季刊をる」7号誌上での競演から、前川氏が「アーミーナイフ」の教室を予定している。コントラストも鮮やかな十字の紋章の折り出しは競演作品中秀逸のデザイン。

◎何が飛び出す？川畑氏

川畑氏からは不気味な伝言「とびきり難しいやつを・・・」。昨年、小学生に「鹿」をあっさり攻略されたが、今回に臨む超難解折紙の横綱・川畑氏は不敵に笑う。こわーい？

◎魔翁現る

北條氏は、得意の人物造形から「魔翁」だ。イギリスでのレクチャー経験で経験値もアップ。魔法もひとつ増えたぞ！ なんのこっちゃ？

◎新作おりがみ手品

和久氏は、昨年に続き折り紙を使った手品をレクチャーしてくれる。新ネタの準備中ということだから期待しよう。

その他、昨年好評の紙の染色講座（高井氏）や木村（哲）氏による恐竜葉、チャレンジ精神をくすぐる難解なものからあつというシンプルな逸品。幅広いプログラムを予定しています。

◎話題のインターネット実演も予定

インターネットの世界に探偵団もいよいよ進出。現在、成安造形大学と共同制作中の折り紙ホームページを会場に常設したパソコンを使って実際に体験してもらうコーナーを企画中。

◎懇親会ゲームは「大クイズ大会」

コンベンション初日（5/25）の午後6時より、懇親会を行います。久しいご友人との旧交を温め、また講師の生の声を聞くまたとないチャンスです。更に、今回の懇親会では、全員参加で楽しめる「折紙探偵団大クイズ大会」を企画しています。優勝者には、あっと驚く賞品が？。

◎朝まで・おりがみ

25日夜の宿泊施設の用意を検討しています。遠方からおこしの方の金銭負担を考慮し、広間を借りきるような方式を考えています。実現すれば、夜通し折り紙を楽しむことができるはず。詳細は、参加申込みとともに事務局へご確認ください。

◎折り図集も更に充実

前回のコンベンションで発行した折紙探偵団折り図集は、コンベンション当日のテキストとして、また、都合がつかず参加できなかった方々に大好評。既に在庫切れとなっています。今回もコンベンションに合わせ、折紙探偵団折り図集を発行いたします。内容は昨年同様、コンベンションでの講習作品を中心に編集しますが、更に講習以外の未発表作品も充実。

About "ORIGAMI TANTEIDAN CONVENTION 96"

Dear friends of the world

We are going to hold "ORIGAMI TANTEIDAN CONVENTION 96" on May 25 and 26 at Bunkyo-kumin Center, Tokyo.

In ORIGAMI TANTEIDAN CONVENTION, that we also held last year, you will have some origami classes in which members of ORIGAMI TANTEIDAN instruct you. Let's fold and fold through two days, and have a good time with us. You can learn from simple

models to hyper-complex, most models are unpublished, from the very creators, so you can learn technique or knowhow that you cannot learn via diagrams. You can also have a chance to get acquaintance and to have friendships with origami-lovers of the world. Even if you don't belong to ORIGAMI TANTEIDAN, or even if you are a beginner, please feel free to take part in this convention. If you love origami, please join us!

◎参加者を募集中！

この「第2回折紙探偵団・コンベンション」への参加者を募集しています。参加資格は、折り紙が好きな人ならどなたでも大歓迎ですが、小学生以下のお子さまにはなるべく父兄の方のご同伴をお願いします。参加費は25日・26日の二日間で4000円。1日だけの参加でも割引はございませんのでご了承ください。また、懇親会への参加ご希望の場合、別途4000～5000円が必要です。同時に発行する折り工程図集は、1000円で販売いたします。参加ご希望の方は、5月15日までにおりがみはうすまで参加の旨をお知らせください。ただし、それ以前に定員の150名に達しますと参加申込みを打ち切らせていただく場合がありますのであらかじめご了承ください。参加費用等は、当日会場にてお支払いただきます。

日本テレビ、鉄腕DASH！実験コーナーで

折り紙の舟にTOKIOが乗った

川上理子

それは1月半ば過ぎの肌寒い朝のこと。

「もしもし、おりがみはうすのYです。おはようございます」

「川上です。おはようございます（何なのおー。こんな朝っぱらから・・・まだ10時半やんか。）」

「いつまで寝てるの。今日、君、ひまでしょ？」

「いいえ、私明日から旅行だから体力温存のために、今日一日ベッド上安静なんです。」

「ごろごろしてるとブタになよ。」
（大きなお世話だ）

「読売ランドに連れて行ってあげるから起きなさい。TOKIOに会わせてあげるし、ジェットコースターもあるよ」

「（女子中学生の誘拐犯みたい。そういえばひげも怪しい。）いいです」

「探偵団の仕事だから来なさい。11時15分神保町集合。遅れないように」

（いやや。いやや。いややあ。）

神保町から電車に乗ること1時間余り、読売ランドで待っていた仕事とは、ジャニーズのTOKIOというアイドルグループが、紙で舟を折りそれに乗って浮かぶことができるかを実験するため、講師としてY氏を招いた、そこでY氏が教えているところ

を写真にとり、記事にする事であった。（えーっ、ということはYさんの折紙講師の仕事じゃないの？探偵団の仕事？だまされた？）因みに実験の様子はTOKIOの「鉄腕DASH！（日本テレビ系毎週木曜 PM11:25～）」という番組の実験コーナーで2月1日放送された。

さて、読売ランドの屋外プールの横に用意されていた紙は、2.5～5メートル四方の紙で和紙、新聞紙、コート紙、上質紙の4種類であった。まず15cmの折り紙でTOKIOのメンバー3人（全員で5人、この日は城島リーダー・松岡君・国分君が来ていた）がY氏に舟の折り方を習い、その後それぞれの紙で舟を折った。北風の吹く中、屋外での作業にも文句一ついわず一生懸命折るTOKIOは、

さすがジャニーズのアイドルだと感心しながら、私は、寒い足が冷える、ジェットコースターに乗りたーいとおうたれていた。やがて一人が横になることのできるような全長1.5m程の舟が何そうも仕上がったが、この時点では、内心誰もが浮かぶわけではないだろうと高を括っていた。とこ

ろがである。新聞紙や他の紙は無理だったが、和紙の舟は写真の如く浮かんだのだ。舟を流れるプールに浮かべ、一番体重の軽い国分君がウェットスーツで舟に乗って何m進むことができるかという実験では、200mのプールを一周したのである。確かに最後の方では殆ど舟には見えないくらいつぶれてたけどね。3枚7万円の和紙、侮り難し。勿論Y氏のモデルが良かったことは言うまでもない（よいしょっと）。なおこのモデルについてのお問い合わせはおりがみはうすでは一切受け付けていません（と思う）。

「Yさん、ところで今日の私の取材のバイト料は？」

「何言ってるんだ。探偵団の仕事はみんなボランティアに決まってるじゃないか」



吉野一生

結局こういう苦勞が実ってウェットフォールディングなどが楽々できるようになって行った。ただし、裏打ちに苦勞が足りなくて今でも下手であるが、...

川畑文昭・著 誠文堂新光社刊
B-5変形 62ページカラー口絵4

手描き折り図につよ～い味方、フリーハンドで直線が引ける便利な道具がドイツからやってきました。ピラミッド・ライナー、是非試してみてください。ちなみに私は手描き回路図に使ってます。(N)



発行・折紙探偵団
〒112 東京都文京区白山5-36-7
ギャラリーおりがみはうす内
Phone (03) 5684-6040
発行人・西川誠司
編集人・岡村昌夫